

Sun Java™ System Identity Manager リリースノート

バージョン 7.0 2006 年 10 月

Part No. 820-0161

このリリースノートには、Sun Java System Identity Manager 7.0 のリリース時に入手可能な重要な情報が含まれています。ここでは、新機能と拡張機能、既知の問題と制限、その他の情報について説明しています。Identity Manager 7.0 の使用を開始する前にこのドキュメントをお読みください。

このドキュメントでは、サードパーティー URL を参照して、追加の関連情報を提供します。

注

Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティー Web サイトの利用について責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆる内容、広告、製品、およびその他の資料を保証するものではなく、責任または義務を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、製品、またはサービスによって生じる、または使用に関連して生じる、または信頼することによって生じる、いかなる損害または損失についても責任または義務を負いません。

サポートされているソフトウェアと環境

ここでは、Identity 製品ソフトウェアと互換性があるソフトウェアや環境を示します。

- [オペレーティングシステム](#)
- [アプリケーションサーバー](#)
- [ブラウザ](#)
- [リポジトリデータベースサーバー](#)
- [Sun Identity Manager Gateway](#)
- [サポートされているリソース](#)
- [Web サーバー](#)
- [サポートされなくなるソフトウェア](#)

注 ソフトウェア製品の開発元はソフトウェアの新しいバージョン、更新、および修正を頻繁に出荷するため、ここに公開される情報も頻繁に変更されます。インストールに進む前に、リリースノートで更新情報を確認してください。

オペレーティングシステム

このリリースの Identity Manager は、次のオペレーティングシステムをサポートしています。

- AIX 4.3.3、5.2、5L v5.3
- HP-UX 11i v1、11i v2
- Microsoft Windows 2000 SP3 以降
- Microsoft Windows 2003
- Solaris 8、9、10 SPARC および x86
- Red Hat Linux Advanced Server 2.1
- Red Hat Linux Enterprise Server 3.0、4.0
- Novell SuSE Linux Enterprise Server 9 SP1

アプリケーションサーバー

Identity Manager で使用するアプリケーションサーバーは、次のリストに特に明記されていないかぎり、Servlet 2.2 と互換性があり、なおかつ Java プラットフォームが搭載されている必要があります。Identity Manager には JDK 1.4.2 以上が必要です。

- Apache® Tomcat
 - バージョン 4.1.x (JDK 1.4.2 搭載)
 - バージョン 5.0.x (JDK 1.4.2 搭載)
 - バージョン 5.5.x (JDK 1.5 搭載)
- BEA WebLogic® Express 8.1 (JDK 1.4.2 以上搭載)
- BEA WebLogic® Server™ 8.1 (JDK 1.4.2 以上搭載)
- BEA WebLogic® Server™ 9
- IBM WebSphere® 6.0
- IBM WebSphere® Application Server - Express Version 5.1.1 (JDK 1.4.2 搭載)
- JBoss Application Server 4.0.4
- Sun™ ONE Application Server 7
- Sun Java™ System Application Server Platform Edition 8
- Sun Java™ System Application Server Platform Edition and Enterprise Edition 8.1

注	現在使用しているアプリケーションサーバーが JDK 1.4.2 以上をサポートしていない場合は、Identity Manager 7.0 をインストールする前にベンダーに問い合わせ、JDK 1.4.2 以上をサポートするアプリケーションサーバーにアップグレードした場合の影響について検証してください。
---	--

ブラウザ

Identity Manager は、次のブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer 5.x 以降
- Mac OS X 10.3.3 以降での Safari v2.0 以降
- Mozilla 1.78 (JRE 1.5 搭載)
- Firefox 1.04、1.05、1.06、1.5 (JRE 1.5 搭載)

リポジトリデータベースサーバー

Identity Manager は、次のリポジトリデータベースサーバーをサポートしています。

- IBM® DB2® Universal Database for Linux、UNIX®、および Windows® (バージョン 7.x、8.1、8.2)
- Microsoft SQL Server™ 2000、2005
- MySQL™ 4.1、5.0
- Oracle 9i® および Oracle Database 10g、10g Release 1 および 10g Release 2®

Sun Identity Manager Gateway

Windows Active Directory、Novell NetWare、Novell GroupWise、Exchange 5.5、Remedy、Lotus Domino、または RSA ACE/Server のリソースを設定する場合は、Sun Identity Manager Gateway をインストールする必要があります。

サポートされているリソース

Identity Manager ソフトウェアは次のリソースをサポートします。

- [CRM \(Customer Relationship Management\)](#)
- [データベース](#)
- [ERP \(Enterprise Resource Planning\)](#)
- [ヘルプデスク](#)
- [メッセージプラットフォーム](#)
- [メッセージキュー](#)
- [オペレーティングシステム](#)
- [ロール管理システム](#)
- [セキュリティマネージャー](#)
- [Web Access Control](#)

CRM (Customer Relationship Management)

- Siebel バージョン 6.2、7.0.4、7.7、7.8 CRM ソフトウェア

データベース

- 汎用データベーステーブル
- IBM® DB2® Universal Database for Linux、UNIX®、および Windows® (7.x、8.1、8.2)
- Microsoft® Identity Integration Server (MIIS) 2003

- Microsoft SQL Server 2000、2005
- MySQL™ 4.1.x、5.x
- Oracle 9i®
- Oracle Database 10g Release 1®
- Sybase Adaptive Server® 12.x
- スクリプト JDBC

ディレクトリ

- LDAP v3
- Microsoft® Active Directory® 2000、2003
- Novell® eDirectory on Novell NetWare 5.1、6.0
- Open LDAP
- Sun™ ONE Directory Server 4.x
- Sun Java™ SystemDirectory Server 5 2004Q2、2005Q1

注

- Identity Manager のテストは Sun™ ONE Directory Server と Open LDAP で行われましたが、ほかにも、v3 と互換性のある LDAP サーバーの中には、リソースアダプタへの変更なしで機能するものもあります。
 - Active Sync を使用している場合、Sun Java™ System Directory Server 5 2005Q1 では Directory Server の旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインに対するパッチが必要です。このパッチは、「通常の」レプリケーションに対してのみ必要です。MMR レプリケーションに対しては必要ありません。
-

ERP (Enterprise Resource Planning)

- Oracle E-Business Suite on Oracle Applications 11.5.9、11.5.10
- Peoplesoft® PeopleTools 8.1 ~ 8.4.2 with HRMS 8.0 ~ 8.8
- SAP® R/3 v4.5、v4.6
- SAP® R/3 Enterprise 4.7 (SAP BASIS 6.20)
- SAP® NetWeaver Enterprise Portal 2004 (SAP BASIS 6.40)
- SAP® NetWeaver Enterprise Portal 2004s (SAP BASIS 7.00)

ヘルプデスク

- Remedy® Help Desk 4.5、5.0

メッセージプラットフォーム

- Blackberry RIM Enterprise Server 4+ (汎用 Windows スクリプトアダプタを使用)
- Sun Java System Messaging Service および Calender Service
- Lotus Notes® 5.0、6.5、6.5.4 (Domino)
- Microsoft® Exchange 5.5、2000、2003
- Novell® GroupWise 5.x、6.0

注	• Microsoft Exchange 2000 および 2003 の管理には、Microsoft Windows Active Directory 2000 および 2003 リソースが使用されます。 • BlackberryResourceAdapter は今後のリリースでサポートされなくなる予定です。Blackberry Enterprise Server Version 4+ のリソースアダプタを必要とする今後の実装は、ScriptedGatewayResourceAdapter に基づきます。
---	---

メッセージキュー

- JMS Message Queue Listener

オペレーティングシステム

- HP OpenVMS 7.2
- HP-UX 11.0、11i v1、11i v2
- IBM AIX® 4.3.3、5.2、5L v5.3
- IBM OS/400® V4r3、V4r5、V5r1、V5r2、V5r3、V5r4
- Microsoft Windows® NT® 4.0
- Microsoft Windows® 2000、2003
- 汎用 UNIX シェルスクリプト
- 汎用 Windows スクリプトアダプタ (ゲートウェイを使用)
- Red Hat Linux 8.0、9.0
- Red Hat Linux Advanced Server 2.1
- Red Hat Linux Enterprise Server 3.0、4.0
- Sun Solaris™ 8、9、10
- SuSE Enterprise 9

ロール管理システム

- BridgeStream SmartRoles

セキュリティーマネージャー

- ActivCard® 5.0
- eTrust CA-ACF2® Security
- Natural
- IBM RACF®
- スクリプトホスト
- INISafe Nexess 1.1.5
- RSA ClearTrust 5.5.2、5.5.3
- RSA® SecurID® 5.0、6.0
- RSA® SecurID® 5.1、6.0 for UNIX
- eTrust CA-Top Secret® Security 5.3

Web Access Control

- IBM Tivoli® Access Manager 4.x、5.1
- Netegrity® Siteminder® 5.5
- RSA® ClearTrust® 5.0.1
- Sun™ ONE Identity Server 6.0、6.1、6.2
- Sun™ Java System Identity Server 2004Q2
- Sun™ Java System Access Manager 6 2005Q1、7 2005Q4 (2005Q4 時点でサポートされるレルム)

Web サーバー

注 Identity Manager では、アプリケーションサーバーと Web サーバーの統合は必要ありません。Web サーバーを使用して、ロードバランスの改善と HTTPS プロトコルによるセキュリティの向上を図ることができます。

- Apache 1.3.19
- iPlanet 4.1
- Microsoft Internet Information Server (IIS) 4.0、5.0
- Sun™ ONE Web Server 6

サポートされなくなるソフトウェア

Identity Manager では、アプリケーションサーバー、データベースリポジトリ、管理するリソースとして使用されてきた、次のソフトウェアのサポートを打ち切る予定です。サポートは、Identity Manager の次回のメジャーリリースが登場するまで続けられます。これらのソフトウェアパッケージの最新バージョンへの移行については、カスタマサポートまでお問い合わせください。

ソフトウェアのカテゴリ	ソフトウェアパッケージ
オペレーティングシステム	• IBM AIX 4.3.3 • Microsoft Windows NT 4.0
アプリケーションサーバー	• Apache Tomcat 4.1.x • Sun ONE Application Server 7
リポジトリデータベースサーバー	• MySQL 4.1
リソース	• ActivCard 5.0 • Lotus Notes (Domino) 5.0 • Microsoft Exchange 5.5 • Microsoft Windows NT 4.0 • MySQL 4.1 • Red Hat Linux 8.0 • SAP R/3 v4.5、v4.6 • Siebel 6.2 • Sun ONE Identity Server 6.0

次の依存ソフトウェアは、Identity Manager 7.0 ではサポートされなくなる予定です。

ソフトウェアのカテゴリ	ソフトウェアパッケージ
データベースサーバー	• Oracle 8i • IBM DB2 Universal Database for Linux、UNIX、および Windows 7.0
オペレーティングシステム	• Solaris 7 • IBM DB2 Universal Database for Linux、UNIX、および Windows 7.0
リソース	• Microsoft Exchange 5.5 • IBM DB2 7.0

NT4 リソースアダプタの公式サポート

改善、向上された新機能を最新のリリースに搭載するにあたり、旧バージョンのサポートを終了 (EOL: End-of-Life) することをご了承ください。EOL の計画は、Microsoft の NT4 オペレーティングシステムのサポート終了に基づいています。Sun は NT オペレーティングシステムのサポートを終了しますが、その他の NT アダプタ機能は引き続きサポートします。Sun は NT4 オペレーティングシステムを使用する顧客に対するサポートを 2006 年末まで継続する予定です。

API のサポート

Identity Manager 7.0 API (アプリケーションプログラミングインタフェース) には、次の表に示す public クラス (および public または protected メソッド、または public クラスのフィールド) が含まれます。

API のタイプ	クラス名
セッション	com.waveset.msgcat.*
	com.waveset.util.*
	com.waveset.object.*
	com.waveset.exception.*
	com.waveset.expression.*
	com.waveset.config.*
	com.waveset.session.SessionUtil
	com.waveset.session.ScriptSession
	com.waveset.session.SessionFactory
	com.waveset.session.Session
アダプタ	com.waveset.session.UserViewConstants
アダプタ	com.waveset.adapter.*
	com.waveset.util.Trace
ポリシー	com.waveset.policy.PolicyImplementation
	com.waveset.policy.StringQualityPolicy
レポート	com.waveset.report.BaseReportTask
タスク	com.waveset.task.Executor
	com.waveset.task.TaskContext
UI	com.waveset.ui.FormUtil
	com.waveset.ui.util.RequestState
	com.waveset.ui.util.html.*
ワークフロー	com.waveset.provision.WorkflowServices
	com.waveset.session.WorkflowServices
	com.waveset.workflow.WorkflowApplication
	com.waveset.workflow.WorkflowContext

Identity Manager SPE には、次の表に示す public クラスが追加されています。

API のタイプ	クラス名
SPE	com.sun.idm.idmx.api.*
	com.sun.idm.idmx.txn.TransactionPersistentStore
	com.sun.idm.idmx.txn.TransactionQuery
	com.sun.idm.idmx.txn.TransactionSummary

これらのクラスは、公式にサポートされる唯一のクラスです。これらの表に示されていないクラスを使用する場合は、サポートされるクラスへの移行が必要であるかどうかをカスタマサポートまでお問い合わせください。

非推奨の API

このリリースノートの「[非推奨の API](#)」の節では、このリリースで非推奨になったすべての Identity Manager API (アプリケーションプログラミングインタフェース) とその代替となる API (存在する場合) の一覧を示します。

アップグレードパスとサービス終了

ここでは、Identity Manager をアップグレードする場合に使用するアップグレードパスについての情報を記載し、製品ソフトウェアサポートの Identity Manager のサービス終了 (EOSL) ポリシーについて説明します。

Identity Manager アップグレードパス

次の表を使用して、新しいバージョンの Identity Manager にアップグレードする場合に必要なアップグレードパスを判断してください。

現在のバージョン	アップグレード後のバージョン			
	5.0	2005Q3M1	2005Q4M3	7.0
Waveset Lighthouse 4.1 SPx	5.0	5.0 > 2005Q3M1	5.0 > 2005Q4M3	5.0 > 2005Q4M3 > 7.0
Identity Manager 5.0 SPx		2005Q3M1	2005Q4M3	2005Q4M3 > 7.0

現在のバージョン	アップグレード後のバージョン			
	5.0	2005Q3M1	2005Q4M3	7.0
Identity Manager 2005Q1M3 Identity Auditor 1.0		2005Q3M1	2005Q4M3	2005Q4M3 > 7.0
Identity Manager 2005Q3M1 Identity Manager 5.5			2005Q4M3	2005Q4M3 > 7.0
Identity Manager 2005Q3M3 Identity Manager SPE 1.0			2005Q4M3	2005Q4M3 > 7.0
Identity Manager 2005Q4M3 Identity Manager 6.0				7.0

注	- Identity Manager をアップグレードする場合は、次のメジャーリリースにアップグレードするのに、現在の主要リリースでサービスパックをインストールする必要はありません。たとえば、Identity Manager 5.0 から 6.0 にアップグレードする場合、いずれの 5.0 サービスパックもインストールする必要はありません。 - 主要リリースのサービスパックは累積的です。メジャーリリースにアップグレードした後、最新のサービスパックをインストールすれば、そのリリースの他のサービスパックをインストールする必要はありません。たとえば、Identity Manager 5.0 にアップグレードする場合、SP6 をインストールすれば、SP1 から SP5 までのすべての機能が使用できるようになります。
---	--

Identity Manager マニュアルの更新は、次のとおりです。

- リリースごと (サービスパックを含む): 修正されたバグ、製品の拡張機能、新機能、その他の重要情報を説明するためにリリースノートが提供されます。
- メジャーリリースごと (x.0): 完全な Identity Manager マニュアルセットが更新され、再発行されます。
- マイナーリリースとサービスパックごと : 各出版物が更新され、再発行されるか、付録が追加されます。

ソフトウェアサポートのサービス終了

サービス終了 (EOSL) 期間中、Identity Manager ソフトウェアサポートは 2 段階で提供されます。

- 段階 1: 完全サポート
- 段階 2: 限定サポート

注 完全サポート段階の期間は、製品によって異なります。

完全サポート段階

完全サポート段階の間、Sun Microsystems, Inc. は次に記載されているように、適用可能なサービスリストを含む、顧客の Sun とのサポート契約に従ってソフトウェアサポートを提供します。

<http://www.sun.com/service/servicelist/>

ただし、ソフトウェア製品の EOL 日が発表されると、顧客はそのソフトウェア製品のソフトウェア更新やアップグレードにアクセスできなくなります。

限定サポート段階

限定サポート段階の間、Sun Microsystems, Inc. は次に記載されているように、適用可能なサービスリストを含む、顧客の Sun とのサポート契約に従ってソフトウェアサポートを提供します。

<http://www.sun.com/service/servicelist/>

しかし、顧客はバグを送信することができなくなったり、Sun Microsystems, Inc. から新しいパッチを受信することができなくなります。完全サポート段階と同様に、ソフトウェア製品の EOL 日が発表されると、顧客はそのソフトウェア製品のソフトウェア更新やアップグレードにアクセスできなくなります。

次の表には、古いバージョンの Identity Manager の EOSL および EOL 日についての情報を記載しています。

製品名	製品の状態	最終出荷日	段階 1 終了日	段階 2 終了日 (EOSL)	EOL 発表日
Sun Java System Identity Manager 6.0 2005Q4		05/25/2007	05/25/2008	05/2012	11/20/06
Sun Java System Identity Auditor 1.0 2005Q1	RR 後	02/02/2007	02/2008	02/2012	08/01/06
Sun Java System Identity Manager Service Provider Edition 1.0 2005Q3	RR 後	02/02/2007	02/2008	02/2012	08/01/06

製品名	製品の状態	最終出荷日	段階 1 終了日	段階 2 終了日 (EOSL)	EOL 発表日
Sun Java System Identity Manager 5.0 2004Q3	EOL	08/11/2006	08/2007	08/2011	02/07/06
Sun Java System Identity Manager 5.0 SPx 2004Q3	EOL	08/11/2006	08/2007	08/2011	02/07/06
Sun Java System Identity Manager 5.5	EOL	08/11/2006	08/2007	08/2011	02/07/06
Waveset Lighthouse 4.1			03/2006	03/2010	

再頒布可能ファイル

Sun Java System Identity Manager 7.0 には、再頒布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの提供方法

Sun Java System Identity Manager に問題がある場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートまでお問い合わせください。

- Sun ソフトウェアサポートサービスオンライン
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトは、メンテナンスプログラムやサポートの連絡先番号だけでなく、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、ProductTracker へのリンクもあります。

- メンテナンス契約に基づいて提供されるサポート電話番号

できるだけ確実に問題に対処できるようにするため、サポートにお問い合わせの際には次の情報をご用意ください。

- 問題の説明。問題が発生した状況や業務への影響など
- マシンの種類、オペレーティングシステムのバージョン、製品バージョン。問題に影響を及ぼしている可能性のあるパッチやその他のソフトウェアなど
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

ご意見、ご要望の送付先

Sun ではマニュアルの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。

コメントをお送りになる場合は、<http://docs.sun.com> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームで、ドキュメントのタイトルと Part No. を入力します。Part No. は、マニュアルのタイトルページまたは最上部に記載されている 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば本書のタイトルは『Sun Java System Identity Manager 2006 年 10 月 リリースノート』であり、Part No. は 820-0161 です。

Sun が提供しているその他の情報

役に立つ Sun Java System 情報が次のインターネットサイトで入手できます。

- Sun Java™ System Identity Manager のマニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1514.1>
- Sun Java System のマニュアル
<http://docs.sun.com/prod/java.sys>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートとナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートとトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングとプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System 開発者向け情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>

- Sun Java System ソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

アメリカ合衆国連邦政府の権利 - 商用ソフトウェア。米国政府関係者は、Sun Microsystems, Inc. 標準使用許諾契約、および FAR とその付録の適用条項に従うものとします。

ご使用はライセンス条項に従ってください。

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Identity Manager 7.0 の機能

このリリースの新機能

Sun Identity Manager 7.0 は、Identity Manager、Identity Manager SPE、および Identity Auditor の 3 つの製品を Sun Java System Identity Manager 7.0 という 1 つの製品に統合したものです。この統合ソリューションによって、プロビジョニングと監査のプロセスにおいて ID ベースの管理を適用する、一貫性のあるスケーラブルな方法を提供することができます。

その他の新機能は次のとおりです。

- 拡張された Auditor 機能。次のものがあります。
 - 定期的アクセスレビューのサポート
 - 概要レポートと詳細な職務分掌レポート
 - 是正とアクセスレビュー作業項目にシングルクリックでアクセスできる拡張インタフェース
- 配備に備えたユーザーインタフェース。次のものがあります。
 - 作業項目へのシングルクリックアクセス
 - ナビゲーションとカスタマイゼーションが簡単なタブ付きパネル
- サービスプロバイダの更新。次のものがあります。
 - ディレクトリベースの委任管理
 - ワークフローの呼び出しと通知のサポート
- NetBeans 上に構築された新しい Identity Manager 統合開発環境
- 追加機能。次のものがあります。
 - SPML 2.0 のサポート
 - 追跡イベントによるメトリックスレポート

「[機能の概要](#)」の節には、Identity Manager 7.0 の新機能についてのその他の情報を記載しています。

機能の概要

ここでは、Identity Manager 7.0 の新機能を簡単に説明します。

インストールと更新

- Identity Manager はリポジトリとして Oracle Database 10g Release2® をサポートするようになりました (ID-12908)。
- UserEntitlement オブジェクトは、データベース内の独自のテーブルに格納されるようになりました (ID-13612)。

既存の Identity Manager インストールへのアップグレードの場合、Identity Manager 7.0 のアップグレードの前に適切な upgradeto70.* データベーススクリプトを実行する必要があります。これらのスクリプトは、Identity Manager 定期的アクセスレビューオブジェクトをサポートするために必要なデータベーステーブルを追加します。

- ライセンス構造が製品から削除されました。Identity Manager 7.0 へのアップグレードは、すべての製品で完全に機能します。ライセンスパネルやライセンス用のコマンド行オプションはありません。製品のライセンスを取得しようとすると、「コマンドが見つかりません」というエラーが表示されます (ID-13632 13501)。

管理者インタフェースとユーザーインタフェース

- 「アイデンティティ属性」ページに、アイデンティティ属性についてパスワードの生成状態を説明する「パスワード」セクションが表示されるようになりました。デフォルト値、規則に基づいて、またはパスワードを生成するアイデンティティシステムのアカウントポリシーを割り当てて、パスワードを新しいユーザーに割り当てるよう Identity Manager を設定できます (ID-10274、12560)。
- ツリーテーブルコンポーネントが調整可能な列をサポートするようになりました。ユーザーリストテーブルとリソースリストテーブルで、CSS を介して列の幅を固定ピクセルやパーセンテージ値に設定できます。また、列ヘッダーの右側の境界線をマウスでクリックしてドラッグし、列のサイズを変えることもできます (ID-11474)。
- アカウントおよびリソースツリーテーブルで、内容を並べ替えられるようになりました (ID-12086)。
- エンドユーザーページのメニュー階層がカスタマイズできるようになりました (ID-12415)。
- Identity Manager は、デフォルトの Manager 属性を含めることができるようになりました。これによって、管理者と従業員の関係構築のためのサポートを提供できます。この情報は、Identity Manager ユーザーオブジェクトに格納されます (ID-12416)。
- ページレベルエラーと情報メッセージがすべてページの上部のボックス内にエラーまたは情報アイコンとともに表示されるようになりました。以前は、これらのメッセージはエラーの赤字のテキストや情報メッセージの小さなアイコンとともに表示されていました (ID-12625)。

- ユーザーは、ロールやリソースメンバーシップへのアクセスの許可や削除をリクエストできるようになりました。管理者はこの機能を部下に対しても実行できます (ID-13018)。
- rowPolarity プロパティを XPRESS の EditForm コンポーネントに追加して、交互になった灰色と白の行の色を反転できるようになりました。true の値がデフォルトです。false を選択すると色が反転し、最初のフォームフィールドの背景が白になります (ID-13971)。
- ユーザーインターフェースが自己検索リンクをサポートするようになりました。「他のアカウントについてアイデンティティシステムに知らせる」リンクはエンドユーザーのホームページからプロファイルの下ナビゲーションバーにある新しい「自己検索」タブに移動しました (ID-14698)。
- 次の表は、このリリースでタブやサブタブがどのように再配置されたかを一覧表示しています。

以前のリリースでのタブ		今回のリリースでのタブ	コメント
承認		作業項目 > 承認	
		自分の作業項目	この新しいタブには、すべての作業項目の概要が表示され、作業項目を処理するための開始ポイントを示します。
		アテステーション	この新しいタブは、定期的アクセスレビュー機能をサポートし、ユーザーがアテステーション作業項目を処理できるようにします
		その他	この新しいタブでは、ユーザーが承認、アテステーション、または是正以外の割り当てられた作業項目を処理できます
		履歴	このタブは、ユーザーが実行した承認、却下、受け入れ、および是正のすべてのレポートを表示します
設定 >	レポート	自分の作業項目の委任	この新しいタブによって、作業項目をすべて別のユーザーに委任できます。
		コンプライアンス > ポリシーの管理	これらの新しいタブは、監査ポリシーとアクセスレビューの設定と管理を行うために使用します。
		アクセススキュンの管理	
		アクセスレビュー	
設定 >	レポート	レポート > 設定	このタブは、レポート機能とより近くに並べられるよう変更されました。

以前のリリースでのタブ		今回のリリースでのタブ		コメント
設定 >	管理するリソース	リソース >	タイプの設定	このタブは、この機能をリソースとより近くに並べられるよう変更されました。
設定 >	管理者ロール 機能 証明書 ログイン ポリシー	セキュリティ >	管理者ロール 機能 証明書 ログイン ポリシー	「セキュリティ」タブは、セキュアなアカウントアクセスと特権に関する機能を再編成するためにこのリリースで新しく導入されました。
設定 >	メタビュー	メタビュー >	アイデンティティ属性 アイデンティティイベント	このタブでは、アイデンティティ属性とイベントを直接編集できます。
リスク分析 >	レポートの実行 レポートの管理	レポート >	リスク分析の実行 リスク分析の表示	このタブは、これらのレポートをほかのレポートと並べるよう変更されました。
サービスプロ バイダエディ ション	ダッシュボードグラフ ダッシュボードの表示	レポート >	ダッシュボードグラフ ダッシュボードの表示	「レポート」の下これらの新しいサブタブは、グラフィカルレポートの表示とグループ化を可能にする「サービスプロバイダエディション」から統合された、新しい機能を示します。
サービスプロ バイダエディ ション		アカウント	サービスプロバイダ ユーザーの管理	このタブでは、 Identity Manager インタフェースでサービスプロバイダユーザータイプを管理できるようにします。
サービスプロ バイダエディ ション >	トランザクションの 検索	サーバータ スク	サービスプロバイダト ランザクション	「トランザクションの検索」タブは「サービスプロバイダエディション」の「サービスプロバイダ」タブから「サーバータスク」タブの「サービスプロバイダトランザクション」タブに移動しました
タスク		サーバータ スク		このタブは、タスクがサーバー上で実行される処理であることを示すように名前が変更されました。

以前のリリースでのタブ		今回のリリースでのタブ		コメント
Identity Auditor インタフェースから Identity Manager 7.0 インタフェースで変更されたタブ				
コンプライア ンス >	ユーザー ポリシービュー リソースビュー 組織ビュー	アカウント	ユーザーアクションメ ニュー	ユーザーアクションはすべて Identity Manager の「アカウント」 タブから実行されます。 「ポリシービュー」、「リソース ビュー」、「組織ビュー」の各タブ は削除されましたが、対応するレ ポートは「レポート」タブから引 き続き使用できます。 「ユーザーアクション」で、「コン プライアンス違反ログの表示」ア クションと「コンプライアンスス テータスの表示」アクションが使用 できるようになりました。
コントロール >	ポリシーの管理	コンプライ アンス >	ポリシーの管理	
設定 >	ポリシー	アカウント >	ユーザーアクションメ ニュー	ユーザーの監査ポリシーの編集 組織の監査ポリシーの編集
是正 >	是正 保留中 完了	作業項目 >	是正 履歴	「保留中」タブと「完了」タブは削 除されました。 保留中の是正は「是正」タブに表 示されます。完了した是正作業項 目は「履歴」タブに表示されます。
レポート >	レポートの実行 レポートの管理	レポート >	レポートの実行 レポートの表示	監査レポートはすべて、「レポー ト」タブから監査レポートのタイ プを選択して使用できます。
タスク		サーバータ スク		

監査

- Identity Manager と Identity Manager SPE の 2 つの監査フレームワークは統合されました。変更内容は次のとおりです (ID-13148)。
 - Identity Manager と Identity Manager SPE の監査ログフレームワークの区別はなくなりました。
 - Identity Manager SPE の監査ログインタフェースは非推奨になりました。
 - 統合された監査ログサービスでは、他社がカスタム監査パブリッシャーを開発し、Identity Manager および Identity Manager SPE 関連監査イベントを処理できるようになります。
 - 新しいパブリックインタフェースの Javadoc 形式のマニュアルがリファレンスキットで入手できます。
 - 監査ログフレームワークのプラグイン可能な機能を示したサンプルコードがリファレンスキットに追加されました。

Identity Auditor

定期的アクセスレビューは、重要なシステムおよびアプリケーションへのユーザーの現在のアクセス権の収集とアテストーションを自動化する機能を提供します。この機能では、ユーザーが 1 つまたは複数のシステムおよびアプリケーションに対して持っている現在のアクセス権を含むレコードを作成できます。これらの各レコードはポリシー規則によって自動的にアテストしたり、手動アテストーションのために適切な人物に転送できます (ID-9719)。

アクセスレビューは、通常、ユーザーが重要なシステムに対して過剰なアクセス権を持たないように定期的に実行されます。複数のシステムとアプリケーションのユーザーアクセスデータを 1 つのレコードに保持することにより、レビューアはユーザーを完全に把握し、より正確な判断を下すことができます。自動化されたプロセスは、レビューがどの程度終了したか、どの程度残っているか、残りの作業の責任者は誰かを示す追跡ツールによってサポートされます。レビュープロセスは、レビューでコンプライアンスチェック (監査ポリシースキャン) とアクセスレビュー (レポートとアテストーション) の両方を実行できるよう従来の監査ポリシースキャンと統合されます。

アクセスレビューは、次のような追加の自動化を行うようカスタマイズできます。

- ユーザーをアテストするかどうかの規則ベースの決定
- ユーザーを自動的にアテスト / 却下できるかどうかの規則ベースの決定
- 特定のユーザーに対して手動アテストーションを行う人物の規則ベースの決定
- 転送、委任、エスカレーションを含むワークフローベースの手動アテストーション
- アテスターは、IdM 管理者である必要はありません。どんな IdM アカウントでもかまいません。

職務分掌レポートも **Identity Auditor** にとって新しい機能です。これによって、ユーザーが内部安全装置をバイパスできる特定のアクセスの競合を検出できます (ID-12716)。これらの競合は、競合違反が財務エラーを引き起こす可能性のある財務システムと ERP で最も重大です。**Identity Auditor** は、このような競合を違反レコードで検出します。このレコードは、ユーザー、システムやアプリケーション、および競合を暗示する正確なアカウント設定を含む特定の競合を示します。**Identity Auditor** の職務分掌によって、1 つのシステムやアプリケーション上、または複数のシステムにわたるアカウント設定の競合を検出できます。

これらの競合は、競合マトリックスレポートにまとめられ、マトリックスの各セルの情報をドリルダウンすると詳細が確認できます。

フォーム

- **MultiSelect** は新しい `displayCase` プロパティをサポートするようになりました。これは、「upper」または「lower」のいずれかに設定できます。この機能は、各 `allowedValues` を大文字または小文字の値にマップする `valueMap` の定義と同じです (ID-8356)。

HTML 表示コンポーネント

- **SortingTable** コンポーネントは、HTML にレンダリングする場合にテーブルを構成する子コンポーネントの `align`、`valign`、および `width` プロパティを考慮するようになりました。
InlineAlert コンポーネントは、エラー、警告、成功、および情報メッセージをフォームに表示する場合にも使用できます (ID-12560)。

Identity Manager 統合開発環境 (IDE)

Identity Manager 統合開発環境 (Identity Manager IDE) とは、使用している配備で Identity Manager オブジェクトを表示、カスタマイズ、およびデバッグできる Java アプリケーションのことです。

Identity Manager IDE の主な機能は次のとおりです。

- プロジェクトのプロジェクトベース、ディレクトリベース、または実行時の表示が可能な統合されたエクスプローラウィンドウ
- ドキュメント変更のためのアクションメニュー
- カスタムエディタ。次のものがあります。
 - XML オブジェクトプロパティを列挙し、XML を入力せずに基本的なオブジェクトタイプ、XPRESS、および XML オブジェクトを編集するためのオブジェクトプロパティシートとグラフィカル値エディタ
 - XML を入力せずにワークフローサービス、承認、ユーザーおよびワークフロータスクを XML ソースに追加するためのドラッグ&ドロップパレット
 - XML 要素と属性に対する構文の強調表示と自動入力を可能にする登録済みの `waveset.dtd` 定義ファイル
- ワークフロー、フォーム、規則のための統合されたデバッグ

- スタンドアロンおよびライブラリの規則を確認するための規則テスター
- 外部ブラウザでのフォームのプレビューとトラブルシューティングのためのフォームプレビューア
- Identity Manager ビュー (ユーザービューなど) をチェックアウト、変更、チェックインできるビューのチェックアウト機能
- CVS の統合

Identity Manager IDE は、完全に統合された NetBeans プラグインで、Identity Manager のビジネスプロセスエディタ (BPE) アプリケーションに代わるよう設計されています。Identity Manager IDE のインストールと使用の詳細については、『Identity Manager Deployment Tools』の「Using the Identity Manager IDE」の章を参照してください。

Identity Manager SPE

- Identity Manager SPE の設定と追跡したイベントデータは、LDAP ディレクトリサーバーに格納されなくなりました (ID-12170)。

代わりに、Identity Manager SPE コンポーネントが Identity Manager リポジトリからこのデータに直接アクセスします。このため、Identity Manager SPE に必要な設定オブジェクトを選択してエクスポートする必要がなくなりました。Identity Manager SPE 配備をその場で更新するために、Identity Manager インストーラを使用できます。

追跡したイベントデータが Identity Manager SPE 設定ディレクトリに格納されている場合は、アップグレードの前に XML としてエクスポートしてください。アップグレード後に追跡したイベントデータを Identity Manager にインポートできます。また、正常にアップグレードした後、設定 LDAP ディレクトリを安全に削除できます。

- Identity Manager SPE を介したオブジェクトへのアクセスに個別の種類のコンテキストが必要なくなりました。Identity Manager SPE フォームは `needSpeContext` プロパティを設定し、このコンテキストを `:display.speContext` を使用して参照する必要がなくなりました (ID-12171)。
- プロビジョニングが実行される前とプロビジョニングが完了した後、カスタム呼び出しを起動できるようにパブリックインタフェースが作成されました (ID-12173)。
- Identity Manager SPE は、改良されたエンドユーザー JSP ページの例を提供するようになりました (ID-12175)。
- Identity Manager は、Identity Manager と Identity Manager SPE User Server の両方からアクセスできる、カスタマイズ可能な委任管理および承認モデルを提供するようになりました。このモデルはディレクトリ属性を使用し、Identity Manager の組織と機能には依存しません (ID-12176)。
- Active Sync と SPE の同期を同じ Identity Manager サーバー上で実行できるようになりました。ただし、同じリソース上では実行しないでください (ID-12178)。

- SPE ユーザーディレクトリフットプリントを削減するために、Identity Manager SPE User XML 属性を圧縮形式で格納できるようになりました (ID-12186)。
- Identity Manager SPE トランザクションで、設定可能なユーザー更新整合性レベルをサポートできるようになりました。追加列 `userId VARCHAR(N)` を追加するために、既存のトランザクションストアデータベースを変更する必要があります。ここで `N` は、予想される Identity Manager SPE ユーザー DN の最大長と追加の 8 文字を含めるのに十分な大きさです。このデータベースの変更は、アップグレードスクリプトの実行中に自動的に実行されることはありません (ID-13830)。

メタビュー

- 新しいアイデンティティーイベント機能がメタビューに追加されました。このオプションによって、リソース上でイベントをいつ発生させるか、それにどのように適切に対応するかを決定するためのモデルを定義できます。この機能では、リソースがイベントの検出をサポートしていない場合は、リソース上でネイティブに、または規則の評価によって、削除、無効、有効のイベントも検出できます。

ユーザーとリソースアカウントの削除、割り当て解除、リンク解除、有効化、無効化を任意に組み合わせてイベントに対応できます。アイデンティティーイベントは **Active Sync** 中のみ適用されます。アイデンティティー属性と同様に、これらのイベントは **Active Sync** がメタビューの有効なアプリケーションとして選択されている場合にのみ適用されます (ID-12561)。
- 管理者インタフェースで、削除検出レポート機能が追加されました。この機能は、アカウントが削除されたかどうかをネイティブに判断する **Active Sync** をサポートするリソースアダプタに適用されます (ID-13206)。
- メタビューがターゲットフィールドの値を設定する新しいオプションをサポートするようになりました。複数値の属性も統合できます (ID-13212)。

レポート

- 一括操作の結果を CSV 形式でダウンロードできるようになりました (ID-9297)。
- デフォルトで、レポートを実行する 1 つまたは複数の組織を選択して明示的に書きしなないかぎり、次の各レポートはログインしている管理者によって制御された一連の組織に自動的に範囲設定されます。管理者ロールの概要、管理者概要、ロールの概要、ユーザーの質問の概要、ユーザーの概要。組織範囲選択のためのコンポーネントも、単一選択から複数選択可能なコンポーネントに変更されました (ID-12116)。
- Identity Manager は、Java Management Extensions (JMX) を使用してさまざまなコンポーネントの監視をサポートするようになりました (ID-12405)。
- 次の新しいレポートで管理者と従業員の関係をサポートするようになりました。My Direct and Indirect Employee Detail、My Direct Employee Summary、My Direct and Indirect Employee Summary、My Direct Employee Detail (ID-12416、ID-12689)。

- マルチバイトテキストを含む CSV レポートを UTF-8 文字セット以外の文字エンコーディングで出力できるようになったため、Microsoft Excel など UTF-8 エンコーディングをサポートしないアプリケーションでも表示できるようになりました (ID-13574)。

リポジトリ

- 管理者は RepositoryConfiguration オブジェクトの connectionPoolDisable 属性を **true** に設定して、Identity Manager リポジトリの自動内部接続プールを無効にできます。古い方法である `com.waveset.repository.ConnectionPoolDisable=true` の設定は、非推奨になりました (ID-10924)。
- Identity Manager 7.0 では、リポジトリメソッド署名 `#getLastMod(Type, long)` が削除されました。Identity Manager 5.0 SP2 では、`#getLastMod(Type)` を使用するため、このメソッド署名が非推奨になりました。カスタムアプリケーションでは、このメソッドを参照したり、`com.waveset.repository` パッケージ内の任意のクラスやインタフェースを直接参照したりしないでください (ID-11761)。
- Microsoft SQL Server 向けのデフォルト JDBC ドライバは、Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver になりました。このドライバは古い Microsoft SQL Server 2000 JDBC Driver に置き換わります。この新しいデフォルトドライバは、JDBC ドライバクラス名と SQL Server データベース URL の形式を変更します。また、「SelectMethod=Cursor」をこれらの URL に付ける必要もなくなります (ID-14136)。

リソース

- Identity Manager 7.0 には、次のリソースのサポートが含まれます。
 - スクリプト JDBC (ID-7540)
 - BridgeStream SmartRoles (ID-12262)
 - Sun Java System Access Manager でのレールのサポート (ID-12414)
- SecurId アダプタは、状態ごとにトークンを取得できるようになりました (すべての LOST トークンまたはすべての ENABLED トークンなど) (ID-7646)。
- OS/400 v4r5、v5r2、v5r3、および v5r4 (5.2、5.3、および 5.4) のサポートが追加されました (ID-9928、13122)。
- 監査機能をサポートするために、複数の属性が Oracle ERP アダプタに追加されました (ID-11725)。
- RACF アダプタに、`listAllObjects` の検索フィルタサポートが含まれるようになりました (ID-10895)。
- SAP HR Active Sync アダプタは、mySAP ERP ECC 5.0 (SAP 5.0) をサポートするようになりました (ID-12408)。
- SAP アダプタと SAPHR アダプタは、ネットワーク障害の発生時に SAP 操作の再試行のためのパラメータを提供する、3 つの新しいリソース属性を提供するようになりました (ID-12579)。

- SAP BAPI 再試行回数 : 操作を再試行する回数。
- SAP 接続再試行回数 : SAP サーバーに再接続を試行する回数。
- SAP 接続再試行待ち時間 : SAP サーバーに再接続を試行するまでの待ち時間 (ミリ秒単位)。
- Oracle ERP アダプタは、会計帳簿 (Set Of Books、SOB) 機能をサポートするようになりました (ID-12715)。
- VLV 並べ替えが設定できるようになりました。VLV 並べ替え属性 (vlvSortAttribute) が LDAP リソースに追加されました。属性が設定されると、並べ替えにその値が使用されますが、設定されていない場合は、「uid」値が使用されます (ID-13321)。

ロール

- ロールとリソースグループを個別に、または組み合わせて、ユーザーにリソース上の複数のアカウントを割り当てられるようになりました (ID-6684)。

セキュリティ

- 承認者機能を持つユーザーは、将来の承認リクエストを Identity Manager 承認者ではない 1 人または複数のユーザーに一定期間委任できるようになりました。ユーザーは 3 つのインタフェースから委任できます (ID-8485)。
 - エンドユーザーメインメニュー : 「承認の委任」リンク
 - 管理者インターフェース : 「作業項目」タブ : 「自分の作業項目の委任」サブタブ
 - 管理者インターフェース : 「ユーザーの作成 / 編集 / 表示」ページ : 「セキュリティ」セクション

サーバー

- Identity Manager 7.0 は JBoss Application Server をサポートするようになりました (ID-10620)。
- Identity Manager 7.0 は、類似したリソースを大量に作成し、管理する機能を提供するようになりました (ID-11325)。

SOAP

- Identity Manager 7.0 は Service Provisioning Markup Language (SPML) バージョン 2.0 をサポートするようになりました (ID-12417)。

ワークフロー

- 作業項目の委任がどのユーザーでも設定できるようになりました。このオプションは、管理インタフェースと新しいデフォルトのエンドユーザーインタフェースの両方で設定できます (ID-14110)。

このリリースで解決されたバグ

ここでは、Identity Manager 7.0 で解決されたバグについて説明します。

インストールと更新

- 資格を `com.waveset.install.UpgradePostProcess` に渡せるようになりました。この変更によって、特に、**Configurator** のパスワードが変更され、GUI にアクセスせず手動アップグレードを実行しようとしている場合に、アップグレードプロセスを簡単に進めることができます (ID-13006)。
- Identity Auditor のログインインタフェースが削除されました (ID-14481)。
アップグレードには次の点を考慮してください。
 - Auditor アプリケーション用に定義された質問のある既存のアカウントポリシーは、次のように変更されます。
 - ポリシーに管理者やデフォルトアプリケーション用に定義された質問もある場合は、Auditor アプリケーション用の質問が破棄され、管理者やデフォルト用の質問が代わりに採用されます。
 - ポリシーに管理者またはデフォルトアプリケーション用に定義された質問がない場合は、Auditor アプリケーション用の質問が管理者の質問として再指定されます。
 - Auditor アプリケーション用に定義されたユーザーの秘密の質問の回答は、次のように変更されます。
 - ユーザーに管理者やデフォルトアプリケーション用に定義された回答もある場合は、Auditor アプリケーション用の回答が破棄されます。
 - ユーザーに管理者またはデフォルトアプリケーション用に定義された回答がない場合は、Auditor アプリケーション用の回答が管理者の回答として再指定されます。
- Identity Auditor が有効になっていた以前のインストールからのアップグレードでは、アカウント / 組織テーブルで Auditor 組織が表示できるようになりました。新しいインストールには、Auditor 組織はありません (ID-14636)。
- Conflict Violation Details Form をカスタマイズする職務分掌のための監査ポリシー規則を以前のリリースで作成した場合、アップグレードの前にそのフォームを保存する必要があります (ID-14772)。

管理者インタフェースとユーザーインタフェース

- ユーザーが定義したリソースがダウンしている間にユーザーがログインしようとすると、エラーの内容が記されたメッセージが表示されます (ID-1905)。
- 致命的と思われるエラーのメッセージは、設定されたデフォルトメッセージとともに表示でき、追加の情報を syslog にログ記録できるようになりました。UNIX リソースアダプタは、このエラーメッセージ表示を使用するように変更されました (ID-5495)。

- ブラウザのタイトルバーに表示される製品名文字列を別の文字列に置き換えたり、ローカライズしたりできるようになりました (ID-10905)。
- 完了したロールの同期タスクは、タスクが実行中であるというメッセージを表示しなくなりました。タスクは、統計テーブルによる拡張もされています。エラーと例外が、完了したタスクに対して表示されるようになりました (ID-11181)。
- 「秘密の質問の回答の変更」エンドユーザーページは、秘密の質問のないユーザーをより適切に処理するようになりました (ID-11773)。
- 匿名ユーザーログインのインボックスリンクは、新しいエンドユーザーの作業項目リストテーブルを指すようになりました (ID-12816)。
- noApplet=true プロパティと sorted=true プロパティが設定されると、MultiSelect オブジェクトは使用可能な値を並べ替えるようになりました (ID-12823)。
- セキュアなサイトにアクセスしたり、そのサイトから退出する際に、エンドユーザーにポップアップダイアログが表示されなくなりました (ID-13054)。
- リソースごとにアカウントパスワードポリシーの概要を表示するフォームは、テーブル内の内容をラップするようになりました。以前は概要情報は、ブラウザウィンドウの右側に隠れ、スクロールする必要がありました (ID-13109)。
- sysconfig ファイルで、security.delegation.historyLength パラメータが、記録された以前の委任の数を管理するようになりました (ID-13141)。
- continueLogin.jsp の管理バージョンにカタログメッセージが正しく表示されるようになりました (ID-13193)。
- 検索やフィルタリングのあとにユーザーがリソースへの編集をキャンセルすると発生していた、NULL ポインタ例外が発生しなくなりました (ID-13434)。
- 新しいロールを作成する際に、「利用可能なリソースグループ」がパネルの左と右の両方に表示されることがなくなりました (ID-13573)。
- リソースの名前を変更し、「名前の変更」ではなく「作成」を選択して既存のリソースをコピーすると、ActiveSync が有効かどうかなどの、リソース設定情報が正しく複製されるようになりました (ID-14175)。
- サービスプロバイダのメイン設定でアカウントポリシーが設定されていない場合、アカウントのロックとロック解除が正しく機能するようになりました。以前は、サービスプロバイダのアカウントポリシーが設定されている場合にのみ、サービスプロバイダのアカウント編集ページ上でロックボタンが機能していました (ID-14181)。

フォーム

- SortingTable 表示クラスの並べ替え機能で、手動作業中のエラーが発生しなくなりました (ID-12508)。

- 検証規則メッセージがサーバーではなくクライアントのロケールで表示されるようになりました (ID-12780)。

Identity Auditor

- 監査ポリシーは、リソースの限定されたセットのみをスキャンするよう設定できるようになりました (ID-9127)。
- 間接的に割り当てられたポリシーを表示できるようになりました (ID-11886)。
- プロビジョニング中に `UserViewConstants.OP_CALL_VIEW_VALIDATORS` をポリシーチェックのために設定できます (ID-12757)。
- ユーザーのプロビジョニング操作中のポリシーチェックは、プロビジョニングスレッドで実行できます。以前の動作では、チェックを実行するために常に別のタスクを使用していました。タスクの動作がカスタマイズされていると、タスクのバイパスによってカスタマイゼーションが使用されないことがあります。この問題を解決するには、システム設定 `user.view.alwaysUseTask` 属性を **true** に設定します。これによって古い動作が強制的に実行されます (ID-14086)。

Identity Manager SPE

- トランザクションイベントタイマーはトランザクション中に再起動しません。以前は、Identity Manager SPE のトランザクション処理時間にアカウントポリシーの評価時間が含まれていませんでした (ID-14416)。
- たとえば、アプリケーションサーバーがメモリー不足エラーで終了するなど、サービスが不自然にシャットダウンすると、Identity Manager SPE は、トランザクションの処理を再開するようになりました (ID-14579)。

ローカリゼーション

- 秘密の質問として使用されるメッセージキーが結果ページに正しく表示されるようになりました (ID-13076)。

メインフレーム

- RACF アダプタは、`listAllObjects` で取得されたすべてのユーザーに対して 1 回ずつ大きな文字列を検索しなくなりました。これによって、通常、多数のユーザーに対してこの機能のパフォーマンスが向上します (ID-12829)。

レポート

- 監査レポートで古い属性値が正しいものになりました (ID-12287)。
- 長すぎる `TaskTemplate` 名 (`MAX_NAME_LENGTH` より長い) の生成が修正されました (ID-13790)。

リポジトリ

- たとえば、100,000 人以上のユーザーなど高い負荷で Oracle 10g をリポジトリとして使用している場合、ユーザーの作成と変更でパフォーマンスの低下が発生する可能性があります。パフォーマンスを回復するために、次の SQL 文を使用して userobj テーブルの統計を更新してみてください (ID-14605)。

```
analyze table waveset.userattr compute statistics;
```

リソース

- Domino リソースアダプタの removeDenyGroupsDuringDelete リソース属性は、Identity Manager による削除時にユーザーがアクセス拒否グループのメンバーシップから削除されるかどうかを指定します。この属性を **true** に設定すると、グループからの削除が処理されます。この属性のデフォルト値は、下位互換のため **false** です (ID-10466)。

- LDAP アダプタは、新しいアカウントに不正な識別名 (DN) を作成しなくなりました (ID-10951)。

com.sun.idm.util.ldap.DnUtil のエスケープメソッドが、LDAP DN 形式でリソースアダプタのアイデンティティテンプレートにエスケープ値を挿入することで使用できるようになりました。または、accountId ポリシーを使用し、「LDAP 形式に従う」オプションを選択して、ユーザー入力 ActiveSync、調整などの入力によって Identity Manager に入力する LDAP 識別名を検証できます。

- RFC2253Parser の正規化メソッドは、不正な LDAP 識別名 (DN) を識別し、報告するようになりました (ID-10952)。
- DblBufferIterator の getNextIndex メソッドは、サポートしている配列でオブジェクトの同期外のサイズ情報にアクセスしなくなりました (ID-11129)。
- クラスタ環境での同期状態が改善されました (ID-11250)。
- com.waveset.adapter.SiebelResourceAdapter 内の isPickListAttribute メソッドは、追跡システム内で isMVGAttribute として誤認されなくなりました (ID-11471)。
- LDAP リソース上の **Objectclasses to synchronize Active Sync** 属性のデフォルトは、inetorgperson になりました (ID-11644)。
- Active Sync リソース上で設定されるフラットファイル Active Sync ログの最大数が、正しく作成されるようになりました (ID-11848)。
- Active Sync が機能するために、LDAP リソーススキーママップで objectClass 属性マッピングが必要なくなりました。poll() メソッドと getUpdateRows(UpdateRow) メソッドの両方に優先する com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter を拡張するカスタムリソースアダプタを、どちらかのメソッドで LDAPResourceAdapterBase.ensureObjectClassInSchemaMap() を起動するよう変更してください (ID-11880)。

- Domino リソースアダプタは、リソース属性として「ファイルに ID を保存」オプションを false に設定できるようになりました。これによって、ユーザーの ID ファイルをディスク上でローカルに作成できなくなりました。ただし、ユーザーの作成時には、ID ファイルを引き続き作成する必要があります (ID-12139)。
- Solaris アダプタと Linux アダプタが最後のログイン情報で年を表示するようになりました (ID-12182)。
- Oracle ERP アダプタが Oracle データベースカーソルを閉じるようになりました。以前は、アダプタがカーソルを閉じるのに失敗し、長い時間経ってから、「ORA-01000: maximum open cursors exceeded」というエラーが発生していました (ID-12222)。
- Active Sync からのアカウントまたはユーザーのロックのエラーがログに記録されるようになりました (ID-12446)。

更新されるアカウントまたはユーザーが別のプロセスによってロックされたために、Active Sync に問題が発生した場合は、問題が発生したアカウントまたはユーザーが syslog に書き込まれます。これによってアカウントがロックされていないときにトランザクションを再実行できます。

- Domino リソースアダプタの場合、NSFNoteComputeWithForm() API 呼び出しによる複数のユーザーの HTTPPassword の同時更新で「-551」ゲートウェイエラーが発生しなくなりました (ID-12466)。
- Identity Manager を介さずに直接 API を使用してもゲートウェイのクラッシュが発生しなくなりました (ID-12481)。
- エラーが発生して diff 操作の同期を妨げる場合は、フラットファイル Active Sync アダプタが Active Sync ログに警告メッセージを表示するようになりました (有効な場合) (ID-12484)。
- 8 文字のユーザー名が Copy Links 属性を選択するのにタブを使用しないよう、Natural リソースアダプタアカウントの作成に使用される端末エミュレーションが変更されました (ID-12503)。
- AttrParse オブジェクトの変更では、新しい値を有効にするために再起動する必要はありません (ID-12516)。
- Siteminder ユーザーがログインに失敗してロックされても、Siteminder LDAP アダプタは、次の操作を正しく実行するようになりました (ID-12824)。
 - 有効化
 - 無効化
 - パスワードの期限設定 (有効化 / 無効化による)
 - 期限切れパスワードの復元 (有効化 / 無効化による)
- LDAP グループメンバーシップを変更する場合、グループ全体の書き直し、つまり、uniqueMember 属性全体を置き換える代わりに、単一の追加と削除が使用できるようになりました (ID-13035)。

- Identity Manager は、Secure ID ユーザーを削除しようとする前に、管理特権 (該当する場合) をクリアするようになりました (ID-13053)。
- Oracle テーブルアダプタ (DatabaseTableResourceAdapter) のカーソルリークが解消されました (ID-13111)。
- GenericObject から情報をフェッチしやすいように、Oracle ERP リソースの auditorObject 複合属性構文が名前空間を含むよう変更されました。属性の構文には、責任オブジェクトのリストを含む最上位レベルの「auditorResps」が含まれます (ID-13302)。
- AttrParse のパフォーマンスが向上しました。解析されたバッファのすべての文字に対して、通常の解析が例外をスローし、キャッチすることはなくなりました (ID-13384)。
- UNIX アダプタの SecurID は RSA と相互動作する場合に UTF-8 文字エンコーディングとデコーディングを実行するようになりました (ID-13451)。
- Windows NT リソースアダプタを使用して Windows NT リソース上でアカウントを作成する場合、次のエラーメッセージが「ユーザー作成の結果」ページに表示されなくなりました「Error requiring password: put_PasswordRequired(): 0X80004005:E_FAIL」 (ID-13618)。
- 更新中に Active Directory PasswordNeverExpires 属性を設定できるようになりました (ID-13710)。
- Identity Manager 7.0 サーバーが、ゲートウェイを介した接続を削除した後、notify を呼び出して待機スレッドを通知するようになりました (ID-14044)。

セキュリティ

- 組織の「Organization Administrator」機能を持ったユーザーは、「Account Administrator」機能と「Role Administrator」機能を持っても、ほかの組織内に組織を作成できなくなりました (ID-10235)。
- パスワード生成は、ポリシーに従っていないパスワードに対しても正しく機能するようになりました (ID-12275)。
- パスワード期限設定警告メッセージが、管理インタフェースに表示されるようになりました (ID-13236)。
- Approver 機能に是正作業項目に対する権限がなくなりました (ID-14163)。

Identity Manager 7.0 以前の以前のバージョンでは、Approver 機能はすべての WorkItem に対する権限を持っていました。RemediationWorkItem authTypes と AttestationWorkItem authTypes は、WorkItem から拡張されているため、このままでは Approver 機能を持ったユーザーは RemediationWorkItems に対しても完全な権限を持ち、さらにほかのユーザーのアテステーションもできてしまいます。

この問題は新しい Identity Manager 7.0 インストールと Identity Manager 7.0 にアップグレードされるインストールで解決されました。下位互換のために Identity Manager 7.0 以前のインストールは次の手順に従ってこの問題を解決できます。

- a. Approver 機能への参照を、Approval Administrator 機能への参照に変更する必要があります。変更対象には、Approver 機能を割り当てている可能性のある admingroup 参照、規則またはワークフローが含まれます。
 - b. ワークフローで作成される作業項目が指定された authType を持っているか、デフォルトの Approval (承認) authType になることを確認してください。
 - c. update.xml の WorkItemUpdater を実行して authType が NULL になっているすべての作業項目が Approval authType を持つように変更します (実際には、状況にあわせて必要な authType を設定する)。サンプル文はファイル内にありますが、デフォルトでコメントアウトされています。
- 管理者機能のないユーザーが、ロールとリソースを表示できるようになりました (ID-14745)。
以前は、組織に対する管理者権限のないユーザーはロールとリソースは利用できないため、「自分のロールの更新」または「自分のリソースの更新」を実行する際に、選択リストにロールとリソースが表示されませんでした。

サーバー

- タスクの終了時に、承認などの TaskInstance サブオブジェクトが正しく削除されるようになりました (ID-3258)。
- <Expansion> 内で、<set> を使用した場合にフォームが正しく機能するようになりました (ID-9617)。
- リソースの名前を変更したあと、再試行に失敗した場合に、最後の監査レコードが消失なくなりました (ID-9714)。
- クラスタ環境で、エンドユーザーページでログインに失敗しても直列化関連の例外が発生しなくなりました (ID-10556)。
- タスク情報の処理に時間がかかる場合に、サーバーが自身を非応答として検出しようとするものがなくなりました (ID-10920)。
- IAPI 設定が IAPI XmlData に移行しました。これは、最後に処理された変更についての情報を格納するために主に ActiveSync リソースで使用されます (ID-11266)。
update.xml の読み込みによって、ResourceUpdater が表示名 SYNC_resourceName で既存の「最高水準点」データを IAPI 設定オブジェクトから XmlData オブジェクトに移行し、元の設定オブジェクトを削除します。
- Identity Manager 5.0 SP1 リリースで非推奨になった「セッション」サーバーとビューアの参照が削除されました (ID-11873)。
- 括弧間の区切り処理が停止されました。このため、括弧内の文字がすべてインデックスまたはフィルタとして扱われるようになりました。注: 閉じ括弧「】」をエスケープするメカニズムは現在ありません (ID-12384)。
- changelog ファイル名には、プレフィックス内にピリオド (.) を含めるようになりました (ID-12470)。

- タスクインスタンスの終了が修正操作ではなく終了操作として監査されるようになりました (ID-12791)。
- アカウントオブジェクトの作成のパフォーマンスが向上しました。これによって、調整とプロビジョニングのパフォーマンスも向上します (ID-13341)。
- 「設定」>「サーバー」での新しいサーバー設定によって、サーバーが同時に実行できるタスクの最大数を制限できるようになりました (ID-13343)。

ワークフロー

- 同じライブラリにあっても、ライブラリ名が付加されていない規則名への入れ子になった参照を解決できるようになりました。そのため未解決の規則エラーは発生しません (ID-10265)。
- `notification.redirect` を有効にして、通知メッセージをファイルにリダイレクトしている場合、電子メールが送信されるときと同様に、そのファイルには、`emailNotifier.contentCharset` で指定した文字コードでメッセージが記述されるようになりました。これによって、ファイルには ISO-8859-1 以外の文字コードのメッセージも正しく記述されます (ID-10331)。
- 承認者がすでに承認または却下された作業項目を承認または却下しようとする、ワークフローメッセージに情報が追加されます (ID-11045)。
- デバッグはデフォルトで有効になりました。本稼働配備の場合、「`serverSettings.default.debugger.enabled=false`」というシステム設定プロパティを設定してデバッグを無効にすることをお勧めします (ID-14076)。

マニュアル

このリリースで、Identity Auditor 機能とサービスプロバイダエディションの機能を Identity Manager に統合したことにより、次のマニュアルがなくなりました。

- 『Identity Auditor 管理ガイド』
- 『Identity Manager Service Provider Edition Administration Addendum』
- 『Identity Manager Audit Logging』

これらのマニュアルは『Identity Manager 管理ガイド』に統合されています。

解決されたその他の不具合

10475、11052、12452、13434、14178

このリリースで解決されたバグ

この節では、次の製品に関する既知の問題点と回避策について説明します。

- [Identity Manager](#)
- [Service Provider Edition](#)
- [Auditor](#)

Identity Manager

一般

- cookie が無効な場合、特定のページを表示しようとするログインプロンプトが表示されます (ID-158)。
- 「ワトソン博士」がポップアップ通知を表示しないように、Sun Identity Manager Gateway が稼働するシステムを設定する必要があります。このポップアップ通知が有効に設定されている場合、ゲートウェイでエラーが発生すると、ポップアップウィンドウを閉じるまでプロセスはハングします。
- 無効化フォーム要素では、`display.session` 変数と `display.subject` 変数を使用できません。フォームの再計算のたびに式が実行されるため、長く実行される可能性のあるアクティビティを無効化要素内に作成することはお勧めできません。その代わりに、頻繁に実行されない別のフォーム要素内で計算を行うことをお勧めします。
- Identity Manager Web インタフェースで作業しているときに最高のパフォーマンスを得るには、Identity Manager にバンドルされている OpenSPML ツールキットを使用します。openspml.org Web サイトから入手した openspml.jar ファイルを使用すると、メモリーリークの原因となる場合があります (ID-11889)。
- Identity Manager のインストールディレクトリへのパスに空白文字が含まれる場合は、次のように、二重引用符 (") なしで WSHOME 環境変数を指定する必要があります。

注 パスに空白文字が含まれない場合でも、パスを指定するときは最後の円記号 (¥) を指定しません。

```
set WSHOME=c:¥Program Files¥Apache Group¥Tomcat 4.1¥lighthouse
```

または

```
set WSHOME=c:¥Progra~1¥Apache~1¥Tomcat~1¥lighthouse
```

次のような指定は機能しません。

```
set WSHOME="c:¥Program Files¥Apache Group¥Tomcat 4.1¥lighthouse"
```

- リソーススキーママップに設定する必要があるフィールドは、ユーザーアカウントの作成時にだけチェックされます (ID-220)。ユーザーの更新時にフィールドが必要になる場合は、フィールドが必須フィールドになるようにユーザーフォームを設定する必要があります。
- 組織名、管理者名、アカウント名、ユーザー属性名 (スキーママップの左辺)、タスク名の文字の有効性はチェックされません (ID-1145、1206、1679、1734、1767、2413、3331)。ドル記号 (\$)、コンマ (,), ピリオド (.), アポストロフィー ('), アンパサンド (&), 左角括弧 ([), 右角括弧 (]), コロン (:) をこれらのオブジェクトの名前に使用することはできません。
- セッションのタイムアウト後にアクションを実行しようとする、操作に関連しないエラーメッセージがアカウントページに表示されます (ID-1223)。
- ブラウザが大きなフォントを使用している場合、カレンダーオブジェクトの一部が表示されなくなります (ID-2120)。
- 「検索結果」ページと「タスクのリスト」ページの「すべてを選択」チェックボックスは、リスト内のいずれかの項目が選択されていない場合、未選択状態になりません (ID-5090)。リストのすべての要素に対応するすべてのチェックボックスが選択されていない場合、結果表示アクションの実行時に「すべてを選択」チェックボックスは無視されます。
- カスタムメッセージカタログに変更を加えた場合、変更を表示に反映させるには、サーバーを再起動する必要があります (ID-6792)。
- 複数ユーザーの有効化または無効化時は、サイドバータブ (「アカウントリスト」、「ユーザーの検索」など) は確認ページに表示されません (ID-6866)。ページの内容を確認して結果を表示すると、タブは再表示されます。

- 障害が発生したサーバーを検出する現在のメカニズムは、Identity Manager クラスタ内のすべてのシステムが、時間的に同期されているものと見なします (ID-7064)。障害検出の 5 分のデフォルト間隔では、1 つのサーバーの同期が 5 分以上別のサーバーとずれている場合、時間的に先行するサーバーは遅れているサーバーが非活性であることを宣言し、予期せぬ結果を生じます。これを解決するには、同期の時間的なずれをより少なく維持するか、フェイルオーバー間隔を長めに設定します。
- Windows で、マシンのデフォルトのエンコーディングが 1 バイト文字しかサポートしない場合、名前に 2 バイト文字を含むユーザーとしてログインするには、USER_JPI_PROFILE 環境変数を 1 バイト文字だけを含む既存のディレクトリに設定する必要があります (ID-8540)。

インストールとアップデート

- Identity Manager を idm.war ファイルからインストールした場合、UNIX シェルスクリプトに実行ビットが設定されません (ID-2371)。これを解決するには、idm/bin ディレクトリで UNIX の chmod コマンドを実行します。

- Identity Manager が Tomcat 5.x 環境にインストールされている場合、レポートを実行すると Java エラーが発生します (ID-6652)。これを回避するには、次の処理を実行します。

```
cd $WSHOME¥WEB-INF¥classes
```

```
jar xvf ../lib¥j2ee.jar javax/activation/DataSource.class
```

- AD Active Sync リソースは非推奨になり、AD リソースによって置き換えられました。AD Active Sync を新しいリリースに移行するには、次の手順を実行します (ID-11363)。
 - コマンド行またはデバッグページから、既存の AD Active Sync リソースオブジェクトを xml ファイルにエクスポートします。
 - 既存のリソースを削除します。これは、Identity Manager ユーザーまたはリソースアカウントユーザーには影響しません。
 - Active Sync である新しい AD リソースを作成します。
 - この新しいリソースオブジェクトを XML ファイルにエクスポートします。
 - このファイルを編集し、アイデンティティ属性および name 属性の値を、手順 1 で保存した古いリソースオブジェクトの値と一致するように変更します。これらの属性は <Resource id='idnumber' name='AD' ...> タグにあります。
 - 変更をファイルに保存します。
 - 「設定」の「交換ファイルのインポート」ページまたはコマンド行を使用して、変更したオブジェクトをふたたび Identity Manager にインポートします。

- 6.x インストールから更新したが、新しいエンドユーザーページから起動したい場合、水平のナビゲーションバーを表示するには、システム設定 `ui.web.user.showMenu` を「true」に手動で変更する必要があります (ID-14900)。

アカウント管理

- NT のネイティブツールが管理できない 20 文字を超えるアカウント名を持つ NT アカウントが作成できてしまいます (ID-710)。
- 管理者は、管理対象ではない組織を含むリソースまたはロールを保存することができません。
- 「プロビジョニング結果」ページのカラムをソートすると、結果に空の追加行が作成されます (ID-1105)。
- 数百におよぶユーザーアカウントの承認には長時間かかります (ID-1149)。これを回避するには、より小さなグループ単位でユーザーアカウントを承認します。
- 承認特権を持たなくなった管理者が所有する承認レコードを承認することはできません (ID-1150)。これを解決するには、その管理者が承認特権を持つリソース、ロール、組織から管理者を削除し、管理者の削除、または管理者の削除特権の削除前に未処理であった承認レコードを承認します。
- 修正なしでユーザーを更新しても、詳細結果ページは表示されません (ID-2327)。
- ユーザーを新規作成したり、既存のユーザーにリソースを追加したりする場合、ユーザーの識別名が誤っていると、管理者がログアウトするまで誤った値がキャッシュされます (ID-2508)。識別名の修正後にユーザーを再作成しようとしても、管理者がログアウトするまでは成功しません。
- Netscape 4.7 では、Identity Manager のユーザーインタフェースログイン画面にアカウントロックアウトメッセージが表示されません (ID-2680)。ページの URL にはエラーメッセージが表示されます。
- リソーススキーママップでは、「name」という名前はビューの予約語であるため、Identity Manager のユーザー属性として使用することはできません (ID-2918)。
- Windows Active Directory では、ディレクトリを作成できる管理者としてゲートウェイを実行する必要があります (ID-2919)。Identity Manager は Windows 2000 システム上にホームディレクトリを作成できます。ホームディレクトリアカウントの作成は、リソース定義に指定されている管理者ではなく、ゲートウェイを実行しているユーザーによって行われます。これを解決するには、ゲートウェイを実行しているユーザーをローカルシステムから、リモート共有の作成と、その共有の特権の設定を実行できるアカウントに変更します。このアカウントは、バイパストラバースチェックの特権と、オペレーティングシステムとして動作する特権も必要とします。

- ユーザーアカウントの無効化時にエラーが発生すると、Windows NT リソースはエラーメッセージではなく、誤った警告メッセージをスローします (ID-3222)。
- ユーザー編集ページからユーザーのすべてのリソースを削除すると、`java.lang.NullPointerException` が出力されることがあります (ID-4811)。この問題を回避するには、ユーザー削除ページを使用してリンクを解除するか、ユーザーからこれらのリソースアカウントを削除します。
- Identity Manager ユーザーが作成され、ユーザーアカウントがすでに存在する Windows Active Directory リソースに割り当てられると、リソース情報に GUID 属性を持たない状態でユーザーが作成されます。GUID は、ディレクトリ内のユーザーの組織または名前に加えられた変更の検出に使用されます。この問題は、リソースから調整を実行すると解決されます。
- ユーザーの作成時に、直接割り当てられたリソースを含むユーザーにロールを追加する場合は警告が出力されます (ID-5385)。
- ユーザーの作成時に「転送先」管理者を指定できません。このオプションは、ユーザーの編集時にだけ設定できます (ID-5695)。

承認

- ユーザーを更新し、更新をバックグラウンドで実行するように選択した場合、承認アクティビティはタスク結果ページに表示されます (ID-3301)。この承認は無視できます。
- 管理者の承認レコードは、ユーザーの名前が変更されたあとは表示されません (ID-3386)。これを回避するには、ユーザー名を変更する前に、未処理のすべての承認を解決します。
- 承認されるユーザーが、承認者の制御対象ではない組織に属する場合、管理者は、過去に承認された、または過去に拒否された承認レコードを表示できません (ID-3494)。
- Configurator の承認保留リストに、リソース再試行タスクが表示されます (ID-3508)。

統合開発環境 (IDE)

- ほとんどのノードには「Properties」ウィンドウに、関連付けられたプロパティシートがあります。これらのノードのほとんどには、名前の値を管理するための名前プロパティがあります。「Rename」を右クリックして選択するか、ノードをクリックしてラベルにテキストを入力することによって、ノードを介して特定のオブジェクトの名前を変更すると、ノードのラベルが更新され、XML が変更されます。ただし、プロパティシートの更新は失敗します。別のノードをクリックしてから名前を変更したノードを再度クリックすると、新しい名前を反映したプロパティシートが更新されます。また、プロパティシートのタイトルをクリックして、正しい値に更新することもできます (ID-13696)。
- Identity Manager IDE を使用したオブジェクトの名前変更は、エディタを使用して XML を編集するのではなく、プロジェクトエクスプローラのコンテキストメニューを右クリックして行います (ID-13828)。
- XML ナビゲータが IDM IDE で無効になっています。「Windows」>「Navigator」を選択すると、「Navigator」パネルが開き、「<No view available>」と表示されます (ID-13390)。
- プロジェクトの削除機能はサポートされていません (ID-14013)。
- 規則ライブラリは、基本的な XML の編集と規則テスターでのテストの実行以外、現在サポートされていません。ナビゲーションとプロパティサポートは現在実装されていません (ID-14093)。
- データ型が整数またはブール型の場合は、フォームプロパティ値は、プロパティエディタで設定できません (ID-14128)。

回避策: XML で直接プロパティの値を編集します。

- オブジェクトのダウンロード、アップロード、再読み込みを行うと、リポジトリ内のオブジェクトがロックされます。結果的に、ロック時間内にプロジェクト設定で指定された以外のユーザーがオブジェクトにアクセスしようとすると、失敗する場合があります (ID-14132)。
- デザインタブとワークフローツールバーの表示問題を避けるには、「Show ToolBar」詳細オプションをチェックしたままにします (ID-14138)。
- プロジェクトを終了する際、「Discard All」オプションが正しく機能しません。オブジェクトへの変更を破棄する場合は、エディタウィンドウを閉じて「Discard」を選択する必要があります。これは、NetBeans での既知の問題です (バグ 84236) (ID-14164)。
- NetBeans のコンテキストメニューからオブジェクトの名前を変更する場合、変更を保存する必要があります。変更後、ユーザーはファイルを開かずに「File」>「Save」で変更を保存できます。ファイルが開いている場合は「File」>「Save」を使用するか、ファイルを閉じて、プロンプトが表示されたら変更の保存を選択します (ID-14420)。

- フィールドの `displayClass` を `InlineAlert` に設定すると、フィールドに名前がある場合、`InlineAlert` の値プロパティが表示されません (ID-14456)。
- Identity Manager IDE でユーザー画面からチェックアウトすると、オブジェクトがロックされます。画面にチェックインしたり、画面を閉じててもロックは解除されません。ロックは5分後に自動的に解除されます。IDM IDE でビューからチェックアウトした管理者として Identity Manager にログインして、ユーザーを表示させてもロックを解除することができます (ID-14797)。

ログイン設定

- Domino リソースでは、パススルー認証モジュールは機能しません (ID-1646)。
- 「管理者ログインセットアップ」および「ユーザーログインセットアップ」ページで加えた変更を、ログインしているほかの管理者が表示することはできません (ID-3487)。変更を表示するには、ほかの管理者は管理者インタフェースからログアウトし、ログインし直す必要があります。
- 管理者がログインし、「自分のパスワードの変更」を選択してから別のタブを選択すると、ロックの期限が切れるまでアカウントがロックされます (ID-3705)。

ロックされた状態の管理者を別の管理者が編集しようとする時、「com.waveset.util.WavesetException: 現在、アカウント #ID#Configurator にアクセスできません。あとでやり直してください。」というメッセージが出力されます。「OK」ボタンをクリックすると、最後のアクションからのワークフロープロセスダイアグラムが表示されます。

組織

- 複数の組織を削除する場合、1つの組織で削除に失敗すると、残るすべての組織も削除されません (ID-517)。
- 組織の名前を変更すると、その組織に属するユーザーを含むプロビジョニングリクエストが保留されている場合は、そのプロビジョニングリクエストは失敗します (ID-564)。これを回避するには、組織名を変更する前に、未処理のリクエストが存在しないことを確認します。
- 新規組織の作成時に、組織名の指名前に「ユーザーメンバー規則」オプションが選択されていると、ページの更新後に組織名のフィールドに組織の ID が表示されます (ID-6302)。新しい組織を保存する前に、正しい名前を設定できます。

() - 警告：フィールド [Approvers] 中のカッコ内の値が、許可された値のいずれとも一致しません。

ポリシーと機能

- Identity Manager アカウントポリシー属性「リセット通知オプション」に指定されている「管理者」というオプション値は効力を持ちません (ID-944)。有効なオプション値は、「即時」と「ユーザー」だけです。
- 複数ロールの削除時にエラーが発生すると、ほかのロールに対する処理は継続されず、操作全体が停止します。
- ユーザーによる回答が必要な質問の最小数に、定義されている質問の数より大きな値を設定できてしまいます。このような状況では、ユーザーは「パスワードをお忘れですか」オプションを使用してログインすることができません。
- ポリシーの編集、名前の変更、新規オブジェクト作成の選択によって、デフォルトのアカウントポリシーのクローンを作成することはできません (ID-5147)。アカウントポリシーを新規作成する必要があります。

ユーザーの調整とインポート

- ユーザーがすでに Identity Manager に存在する場合、CSV ファイルからユーザーをインポートしても、リソース属性は更新されません (ID-2041)。
- CSV (コンマ区切りの値) ファイルで、一重引用符 (') を含むアカウント ID が読み込まれると、疑問符 (?) に変換されます (ID-2100)。
- 「スケジュールされている」オプションを使用している場合、「タスクの検索」ページでの検索ではスケジュールされているタスクは表示されません (ID-5001)。
- RedHat バージョン 8 リソースに対して実行した場合、調整は失敗します (ID-6087)。
- リソースの接続プールが有効化されている場合、Oracle ERP リソースの調整は完了しますが、エラーが出力されます (ID-6386)。これを回避するには、調整時の接続プールを無効にします。

レポート

- セキュリティー管理者はレポートを実行または作成できません (ID-1217)。これを解決するには、管理者にレポート管理者機能を与えます。
- リスト分析レポートが、レポート管理者以外の管理者に対しても表示されてしまいます (ID-1224)。
- プレーンテキストオプションで電子メール送信されるレポート結果の書式を設定することはできません (ID-2191)。これを解決するには、電子メールの HTML オプションを使用します。

- 大規模な結果では、監査ログエントリが記録されないことがあります (ID-5050)。
- 組織名にアポストロフィー (') が含まれる場合、選択してもティッカーは表示されません (ID-5653)。
- 管理者レポートの実行時に、管理者を持たない組織に対して、特定の組織に所属する管理者のみをレポートするオプションを選択した場合、`java.lang.NullPointerException` エラーが返されます (ID-5722)。

リソース

- リソーステストボタンを使用しても、一部のフィールドはテストされません (ID-51)。
- リソースポートの割り当てには、65535 より大きな値を設定できてしまいます (ID-59)。
- 誤った **Active Directory** グループ名を設定すると、不正確なエラーメッセージが表示されます (ID-393)。Active Directory グループ名に「`cn=groupname,cn=builtin,dc=waveset,dc=com`」ではなく「`groupname`」を指定した場合、「配列インデックスが境界を超えた」ことを示すエラーメッセージが表示されます。
- 名前が同じで、必須フラグが設定されていないアカウント属性を持つ別のリソースが存在する場合、必須アカウント属性が無視されることがあります (ID-1161)。
- 特権を持たないリソースに対して管理者が組織を追加しようとすると、エラーが表示されます。このため、リソースの編集はキャンセルされ、そのリソースにその他の変更を加えるには、再編集が必要となります (ID-1274)。
- **PeopleSoft** リソースで、リソースアカウントパスワードまたはユーザー名が誤っていた場合、エラーメッセージがクリアされません (ID-2235)。エラーメッセージの状態は次のとおりです。

```
bea.jolt.ApplicationException: TPESVCFAIL - application level
service failure
```

- 終了ステータス `%DISPLAY_INFO_CODE%` を使用する **Windows Active Directory** リソースアクションは、アクションを失敗させ、エラーが出力されます (ID-2827)。
- **Windows NT** リソースアクションは、終了コードの返値がゼロ以外の場合でも、アクションの終了ステータスが「失敗」となりません (ID-2828)。
- ユーザーの作成時に、**Active Directory** でユーザーの一次グループ ID を設定できません (ID-3221)。これを解決するには、一次グループ ID を設定せずにユーザーを作成し、ユーザーを編集して値を設定します。一次グループ ID は、グループの識別名ではなく、番号でも設定できます。

- リソース IP アドレスは、ホスト名が IP アドレスに解決されたあとに JVM にキャッシュされます。リソース IP アドレスが変更されたときは、Identity Manager が変更を検出できるように、アプリケーションサーバーを再起動する必要があります (ID-3635)。これは、Sun JDK (バージョン 1.3 以降) での設定で、`sun.net.inetaddr.ttl` プロパティによって制御されます。このプロパティは、通常は `jre/lib/security/java.security` 内で設定されます。
- Oracle リソース上の 1 ユーザーに複数のアカウントを作成することはできません (ID-3832)。
- エンドユーザーは、Domino リソースアカウントの自己検索機能を使用できません (ID-4775)。
- Active Directory 組織内のサブコンテナでユーザーの出し入れを行った場合、Active Sync アダプタは変更を検出しますが、編集ページにユーザーを表示すると (または、変更を加えてから確認ページを表示すると)、ユーザーのアカウント ID が元の DN (識別名) として表示され続けます (ID-4950)。ユーザーの修正には GUID が使用されるため、これが操作上の問題を生じることはありません。この問題は、リソースに対して調整を実行すると解決されます。
- 組織 (OU) からサブ組織にユーザーを移動すると、LDAP ChangeLog アダプタは変更を認識せずに、ユーザーが削除されたものと見なします。ユーザーオブジェクトは Identity Manager (これが現在の設定である場合) でロックされ、移動されたアカウントに代わる「新規」アカウントは作成されません (ID-4953)。
- UNIX リソースアダプタが使用するプールされた接続は、コマンドまたはスクリプトの実行中にエラーが発生した場合、状態が未確定のまま残されることがあります (ID-5406)。
- NDS 組織は、リソースのベースコンテキストを「[ROOT]」に設定した場合にだけ、ツリーの最上位に作成できます (ID-5509)。
- NDS では、初期プロビジョンのフィールド (グレースログイン制限など) を編集し、プールフィールドに値を指定しない場合、すべてのプールフィールドは `false` に設定されます (ID-6770)。これにより、特定のチェックボックスの値を `true` に設定しなければならない、制限タブ上のその他のフィールドを設定できなくなります。これを回避するには、ほかのフィールドの編集時に正しくプッシュされるように、`true` に設定する必要があるすべてのプールフィールドを必ず `true` に設定します。
- 「接続の管理」--> 「リソースパスワードの変更」機能を使用して UNIX マシンのパスワードを変更する場合、タスク名は、正しくは次のとおりです。
`_FM_PASSWORD_CHANGING_TASK null:null`
 本来は、意味のわかりやすい名前が表示されるべきです (ID-6947)。
- NIS を使用する UNIX リソースでは、接続の管理機能は使用できません (ID-6948)。ルートのパスワードが変更の対象となりますが、NIS はルートアカウントを管理していないため、エラーとなります。

- Identity Manager 組織で更新を選択してユーザーを更新する場合、ネイティブで作成され、Identity Manager に読み込まれた、Sun ONE ID Server アカウントを持つユーザーはエラーとなります (ID-7094)。これを回避するには、これらのユーザーを個別に更新します。
- Identity Manager には、非推奨になった次のクラスがまだ含まれています。
 - `com.waveset.object.IAPI`
 - `com.waveset.object.IAPIProcess`
 - `com.waveset.object.IAPIUser`

今後、カスタムアダプタでこれらのクラスを参照しないようにしてください。代わりに、パッケージ `com.waveset.adapter.iapi` 内の対応するクラスを参照するようにしてください (ID-8246)。
- PeopleSoft コンポーネントインタフェースリソース上にアカウントを持つユーザーを削除しようとすると、エラーが発生します。現在、このリソースはアカウントの削除をサポートしていません (ID-9000)。

リソースオブジェクトの管理

- 「リソースのリスト」ページでは、Windows Active Directory オブジェクト (グループ、組織単位、またはコンテナ) の名前を変更できません (ID-3329)。
- 複数の CN 値を持つユーザーが存在する場合、新しい LDAP グループを作成できません (ID-3848)。これを解決するには、LDAP グループ作成フォームで設定される CN の代わりに DN を使用してグループのメンバーを管理します。

リソースグループ

- 「リソースグループの作成」または「リソースグループの編集」ページで Return キーを使用すると、ページに加えた変更がクリアされます (ID-3430)。
- リソースグループレポートを CSV ファイルとして保存できません (ID-8001)。

セキュリティー

- 暗号化されたデータを含むオブジェクトをインポートし、そのデータが、データのインポート先であるリポジトリに存在しない暗号化キーで暗号化されていた場合、オブジェクトのインポートは行われますが、サーバー暗号化キーが見つからないためデータを復号化できないという警告メッセージが表示されます (ID-12143)。

サーバー

そのまの **RemoteSession** インタフェースではビューを作成できません。配備記述子 (web.xml) を更新する必要があります (ID-14756)。

1. 配備記述子に次のサーブレット定義を追加します。

```
<servlet>
  <servlet-name>rpcrouter3</servlet-name>
  <display-name>OpenSPML SOAP Router</display-name>
  <description>no description</description>
  <servlet-class>
    org.openspml.server.SOAPRouter
  </servlet-class>

  <init-param>
    <param-name>handlers</param-name>
    <param-value>com.waveset.rpc.PasswordSyncHandler</param-value>
  </init-param>

  <init-param>
    <param-name>spmlHandler</param-name>
    <param-value>com.waveset.rpc.SpmlHandler</param-value>
  </init-param>

  <init-param>
    <param-name>rpcHandler</param-name>
    <param-value>com.waveset.rpc.RemoteSessionHandler</param-value>
  </init-param>
</servlet>
```

2. 配備記述子に次のサーブレットマッピングを追加します。

```
<servlet-mapping>
  <servlet-name>rpcrouter3</servlet-name>
  <url-pattern>/servlet/rpcrouter3</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

RemoteSession とともに **createView** を使用するには、**rpcrouter3** サーブレットを使用する必要があります。**rpcrouter3** サーブレットにアクセスするには、**RemoteSession(URL, String, EncryptedData)** コンストラクタを使用する必要があります。

Sun Identity Manager Gateway

- 「NT サービス」画面で「終了」ボタンをクリックしても、Sun Identity Manager Gateway は停止しないことがあります (ID-590)。これを解決するには、サービス停止リクエスト (ハング状態が継続している場合) をキャンセルしてからサービスを停止し直すか、NT サービスダイアログを終了してから再表示し、終了処理を再実行します。
- ゲートウェイがリモート信頼ドメインにある場合、NT ドメインにはグループを追加できません (ID-711)。
- 「net stop "Sun Identity Manager Gateway"」を実行しても、ゲートウェイが停止しないことがあります (ID-2337)。

タスク

- Identity Manager 管理者特権を持つ管理者は、タスクリストにリスク分析タスクが含まれる場合、タスクの管理ページを表示できません (ID-1225)。
- 組織「Top」を管理していない管理者は、検索またはリソーススキャナのスケジュールされたタスクを作成できません (ID-1414)。
- 「タスクの検索」ページには、検索条件と一致するタスクの数が表示されません (ID-5152)。
- スケジュールされたタスクを編集するときは、開始日を MM/DD/YYYY 形式で入力し直す必要があります (ID-5675)。
- 組織「Top」を管理していない委任された管理者は、タスクをスケジュールし、タスク結果を表示することができますが、作成後にタスクを表示することはできません (ID-6659)。スケジュールされたタスクはトップに配置され、委任された管理者には、そのオブジェクトを表示する特権がありません。
- 「Deferred Tasks」という名前のフィールドがライブラリに追加されました。このフィールドによって、ユーザーは延期タスクをリスト表示できるようになります。このフィールドを実装するには、次の行を Tabbed User Form および Tabbed View User Form に追加する必要があります (ID-7660)。

```
<FieldRef name='Deferred Tasks' />
```

ワークフロー、フォーム、規則、XPRESS

- 文字列 TRUE または FALSE、または整数 1 または 2 とブール値の比較に XPRESS `<eq>` 関数を使用することはできません (ID-3904)。これを解決するには、次を使用します。

```
<cond>
  <isTrue><ref>Boolean_variable</ref></isTrue>
  <s>True action</s>
  <s>False action</s>
</cond>
```

- `dolist` によって汎用オブジェクトのリストを反復させる場合、パス表現は機能しません (ID-4920)。

```
<dolist name='genericObj'>
  <ref>listOfGenericObjects</ref>
  <ref>genericObj.name</ref>
</dolist>
```

これを解決するには、次のように `<get>` / `<set>` を使用します。

```
<dolist name='genericObj'>
  <ref>listOfGenericObjects</ref>
  <get><ref>genericObject</ref><s>name</s>
</dolist>
```

- ユーザーフォームのフィールドでグローバル属性名値を使用し、その属性が複数のリソースで共有される場合、導出 (Derivation) 規則も定義する必要があります (ID-5074)。定義しない場合、いずれかのリソースで属性をネイティブに変更すると、属性の変更がほかのリソースに伝播されたり、されなかったりします。
- フォームの HTML コンポーネントでは、`&` から始まる特殊文字列は使用できません。たとえば、` ` は空白文字を表さなくなりました。この問題は、選択リストでの特殊文字 (`&¥<>`) のサポートの変更によって生じました (ID-5548)。
- `<Comment>` タグに指定されたフォーム、ワークフロー、規則のコメントには、改行文字を表す文字列として `
` が含まれます (ID-6243)。これらの文字は、これらのオブジェクトの XML を表示した場合にだけ表示され、Identity Manager サーバーとビジネスプロセスエディタは、これらの文字を正しく処理します。
- 「Resource Table User Form」を使用してユーザーの編集を行うと、ユーザーのリソースの編集時、フォームが最初に表示されるときにリソースの属性がフェッチされません。回避策として、「更新」ボタンをクリックすれば、属性データがフェッチされます (ID-10551)。

Service Provider Edition

- Identity Manager SPE と Sun Java System Portal Server に互換性がない場合があります。暗号化されたライブラリに関連する問題があります (ID-10744)。

この問題は、Portal Server の `/etc/opt/SUNWam/config/AMConfig.properties` ファイルに次の値を設定して Web コンテナを再起動すると修正できます。

```
com.iplanet.security.encryptor=com.iplanet.services.util.JCEEncryption
com.iplanet.security.SSLSocketFactoryImpl=netscape.ldap.factory.
    JSSESocketFactory
com.iplanet.security.SecureRandomFactoryImpl=com.iplanet.am.util.
    SecureRandomFactoryImpl
```

- SPE ダッシュボードの操作時: グラフを最初に読み込むときに何分もかかってしまう場合は、ブラウザが Microsoft Java Virtual Machine (MSJVM) を使用するよう設定されていないことを確認してください。Identity Manager SPE は、MSJVM を使用したブラウザのアプリレットの実行をサポートしていません (ID-10837)。
- Identity Manager 管理者インタフェースに表示される設定オプションの一部は、Identity Manager SPE では使用されません (ID-10843)。該当するものには次のようなオプションがあります。
 - リソースオプション: アカウント除外規則、承認者、およびリソースが割り当てられている組織。
 - ロール属性
- デフォルトでは、IDMXContext API が呼び出す `checkinObject` および `deleteObject` を使用すると監査は実行されません。監査を実行するには、これらのメソッドに渡されるオプションマップで `IDMXContext.OP_AUDIT` キーを `true` に設定することで、明示的にリクエストする必要があります。ApiUsage クラスの `createAndLinkUser()` メソッドに、監査のリクエスト方法が示されています (ID-11261)。
- 6.0 からアップグレードする際に、特定のパラメータが対応するドロップダウンリストで有効な設定と表示されていても、Service Provider Edition のメイン設定ページにこれらのパラメータ (たとえば、SPE ユーザーディレクトリなど) が無効な値であるという警告が表示されることがあります。これを回避するには、ドロップダウンリストから括弧なしの同じ値を選択し、設定を保存します (ID-14818)。
- デフォルトの Service Provider ログインモジュールグループは、Service Provider リソースに「SPE End-User Directory」という名前が付けられることを想定しています。リソースの名前が異なると、Service Provider エンドユーザーログインページが正しく機能しません。ページにログイン関連のフィールドが表示されません (ID-14891)。

この問題を回避するには、正しいリソース名を参照するように
UI_LOGIN_MOD_GRP_DEFAULT_SPE_PWD LoginModGroup オブジェクトの
リソース名を更新する必要があります。

Auditor

管理インタフェース

- 「是正」タブの「完了」サブタブの選択時に、色が変わりません (ID-9149)。
- ローカライズが有効になっている場合、アプリケーションサーバーのロケール設定によっては、2つの言語が混在した状態でメニューラベルやメッセージテキストが表示されてしまうことがあります (ID-9468)。

回避策: ロケール値を「C」に設定すると、この問題を解決できることがあります。

- 「監査ポリシーの作成と編集」ページのヘルプページがありません (ID-13040)。

監査ポリシー

- スキャン中は、リソースから取得できないなどの失敗が発生したユーザーアカウントの再試行はサポートされていません。これらの失敗はスキャンの完了時にレポートされますが、アカウントの再スキャンを自動的に実行する方法はありません (ID-9112)。
- Auditor は、ユーザーが編集されたときには必ずポリシーを適用することによって、ポリシーのスキャンから次のスキャンまでの間、ユーザーがポリシーに適合した状態を保持するようにします。監査ポリシーを割り当てられているユーザーがポリシー違反をしている場合は、そのユーザーを編集してもユーザーへの変更を保存することができません。これは、ユーザーを別の組織に移動するなどの単純な変更でも該当します (ID-9504)。

回避策: ユーザーアプレット上の右クリック移動機能 (または検索後に移動機能) を使用します。または、監査ポリシーのチェックを一時的に無効にします。

監査ポリシーのチェックを無効にするには、システム設定を編集し、`userViewValidators` プロパティを削除します。このプロパティは文字列のリストを値に持ちますが、`init.xml` または `upgrade.xml` のインポート中に追加されます。

- 監査ポリシーウィザード GUI では、3 人の是正者と三者間のエスカレーション期間を指定できます。期間を指定した場合は、是正者を指定する必要があります。指定しないと、是正が削除されます (ID-14198)。

レポート

- 監査ポリシー別、リソース別、および組織別の違反履歴レポートで、対数スケールを「積み重ね」のグラフに実装すると、表示に異常が生じることがあります (ID-9522)。
- 監査レポートセレクトアの下に「レポート」ドロップダウンに「ユーザーコンプライアンス違反ログ」が表示されるべきではありません。これは、「Default Compliance Audit Report」タスクであり、リストから外されるべきです (ID-14721)。
- 以前のリリースで **Conflict Violation Details Form** をカスタマイズしている場合、7.0 にアップグレードする前にフォームをエクスポートする必要があります。アップグレード後に必要に応じて保存したフォームを再インポートします (ID-14772)。
- **Auditor Access Scan Report Administrator** は、監査ポリシースキャンをスケジュールできません (ID-14713)。

これを回避するには、「タスクスケジュール」で作成特権を割り当てるか、少なくとも **Auditor** 管理者または **Waveset Administrator** の機能でレポートをスケジュールします。

- **Identity Auditor** の以前のバージョンで監査ポリシースキャンレポートを作成している場合、**Identity Manager 7.0** にアップグレードするとこれらのレポートは表示されなくなります。これを解決するには、監査レポートの管理者機能 (またはそれ以上) を持つ管理者がこれらのレポートを編集して、表示を「実行」に変更できます (ID-14881)。

定期的アクセスレビュー

- 定期的アクセスレビューを起動した後、アクセスレビューページに移動すると、更新ボタンをクリックするまでリストにスキャンが表示されません (ID-14169)。
- 指定したアクセスレビューターゲットが削除された **Access Review Detail Report** を編集する際にエラーが表示されます (ID-14805)。

回避策: レポートを削除して、新しいレポートを作成します。

- ユーザー範囲を動的組織に設定した状態で、監査スキャンまたはアクセスレビューを実行することはできません。これは、スキャンコードの問題によるものです。スキャンする対象者が定義されていないため、動的組織規則の評価に失敗します (ID-14886)。

これを回避するには (アクセスレビューの場合)、動的組織規則と同じロジックを持つユーザー範囲設定規則を作成し、その規則をアクセスレビューの範囲設定に使用します。

作業項目

- アテストーション作業項目が転送される場合、転送するアテスターによるコメントがすべて作業項目に含まれます。このため、作業項目が最後にアテストされた際に、ほかのアテスターによるコメントが含まれてしまいます (ID-14643)。

インストールと更新の注意点

ここでは、Identity Manager のインストールと更新について説明します。

注	製品の詳細なインストール手順については、『Sun Java™ System Identity Manager Upgrade』および『Sun Java™ System Identity Manager Installation』を参照してください。
---	--

インストールの注意点

製品のインストールプロセスに関する情報は次のとおりです。

- HP-UX には Identity Manager を手動でインストールする必要があります。
- Identity Manager インストールユーティリティーは、任意のインストールディレクトリ名にインストールまたは更新できるようになりました。このディレクトリはインストールプロセスを開始する前に作成しておくか、セットアップパネルから選択して作成する必要があります。
- Tomcat 4.1.x で Identity Manager を実行するには、Sun Web サイト (<http://java.sun.com/products/jsse/index-103.html>) から JSSE jar ファイルをダウンロードして、`idm\WEB-INF\lib` ディレクトリに置きます。
- Windows NT システム上で Sun Identity Manager Gateway を実行するには、Microsoft Active Directory クライアント拡張機能が必要です。DSClient は次の場所にあります。
<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q288358>

アップグレードの注意点

ここでは、Identity Manager をバージョン 6.0 からバージョン 7.0 にアップグレードするために実行する必要がある作業を要約して説明します。Identity Manager 7.0 にアップグレードできるバージョンについては、11 ページの「Identity Manager アップグレードパス」を参照してください。

詳細な情報と手順については、『Sun Java™ System Identity Manager Upgrade』を参照してください。

注

- Identity Manager をアップグレードする場合、アプリケーションサーバー固有の手順については、必ず『Sun Java™ System Identity Manager Installation』にあるお使いのアプリケーションサーバーのインストールの節を確認してください。
- 現在の Identity Manager インストールにカスタム作業が大量にある場合は、アップグレードの計画と実行の支援を Sun のプロフェッショナルサービスにご相談ください。
- JDK1.4 を使用している環境で更新インストールを行うと、更新中に例外が発生する場合があります。この問題 (ID-14258) を回避するために、以下のいずれかの方法を実行してください。

1. グラフィカルインターフェースで更新インストールを行う。
2. テキストインターフェースで更新を行う場合は、java コマンドのオプションとして -Djava.awt.headless=true を追加する。

たとえば、UNIX 環境の場合は、install ファイルを編集して、以下のように
FLAGS="\$FLAGS -Djava.awt.headless=true" を挿入します。

```
if [ -n "$WS_DEBUG" ]; then
    FLAGS="$FLAGS -Dwaveset.debug=$WS_DEBUG"
fi
FLAGS="$FLAGS -Djava.awt.headless=true"
```

Identity Manager アップグレードプログラムの使用

ここでは、Identity Manager インストールおよびアップグレードプログラムを使用して Identity Manager をアップグレードする手順について説明します。

注

- 主要な Identity Manager リリースのほとんどでスキーマの変更が発生します。新しい Identity Manager バージョンにアップグレードする前に、スキーマを更新する必要があります。
- HP-UX など一部の環境では、代替の手動更新手順が必要である、または望ましい場合があります。その場合は、[59 ページの「手動アップグレード」](#)に進んでください。
- UNIX 環境の場合は、/var/opt/sun/install ディレクトリが存在し、そこに書き込みができることを確認してください。
- 更新時は、アプリケーションサーバーがインストールされる場所を知っておく必要があります。
- 以前にインストールされたホットフィックスは、次のディレクトリにアーカイブされます。

```
$WSHOME/patches/HotfixName
```

- 次の手順で示すコマンドは、Windows インストールと Tomcat アプリケーションサーバー向けです。使用するコマンドは、環境によって異なる場合があります。

Identity Manager をアップグレードするには

1. アプリケーションサーバーをシャットダウンします。
2. Identity Manager 6.0 または Identity Manager 7.0 にアップグレードする場合は、次のようにリポジトリデータベーススキーマをアップグレードする必要があります。
 - Identity Manager 6.0 ではタスク、グループ、組織、および syslog テーブルに新しいテーブルを提供する、スキーマの変更を導入しています。これらの新しいテーブル構造を作成して、既存のデータを移動する必要があります。
 - Identity Manager 6.0 は 2 つのテーブルにユーザーオブジェクトを格納します。スキーマを変更するには、db_scripts ディレクトリにあるサンプルスクリプトを使用できます。リポジトリテーブルをアップグレードするには、db_scripts/upgradeto2005Q4M3.DatabaseName スクリプトを参照してください。

注

- リポジトリスキーマを更新する前に、リポジトリテーブルのフルバックアップを作成します。
 - MySQL データベースのアップグレードは非常に複雑です。詳細については、db_scripts/upgradeto2005Q4M3.mysql を参照してください。
-

- Identity Manager 7.0 では、ユーザーエンタイトルメントのための新しいテーブルを導入しています。これらの新しいテーブル構造を作成して、既存のデータを移動する必要があります。スキーマの変更には、db_scripts ディレクトリにあるサンプルスクリプトを使用できます。

注

- リポジトリスキーマを更新する前に、リポジトリテーブルのフルバックアップを作成します。
 - 詳細については、db_scripts/upgrade7.0.DBMSName スクリプトを参照してください。
-

3. Identity Manager サーバー上で Sun Identity Manager Gateway を実行している場合は、次のコマンドを使用してゲートウェイサービスを停止します。

```
net stop "Sun Identity Manager Gateway"
```

4. 次のいずれかの方法でインストーラを起動します。
 - GUI インストーラを使用するには、install.bat (Windows の場合) または install (UNIX の場合) を実行します。
インストーラの「Welcome」パネルが表示されます。
 - nodisplay モードでインストーラを起動するには、ソフトウェアのあるディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
install -nodisplay
```

インストーラが「Welcome」テキストを表示し、GUI インストーラと同じ順番でインストール情報を収集するための質問リストが表示されます。

注

- 表示されない場合は、インストーラがデフォルトの `nodisplay` オプションに設定されています。
 - 新しいバージョンの上に古いバージョンのソフトウェアがインストールされることはありません。この場合、エラーメッセージが表示され、インストーラが終了します。
-

5. 「Welcome」パネルで「Next」をクリックします。
6. 「Install or Upgrade?」パネルで「Upgrade」を選択して、「Next」をクリックします。
7. 「Select Installation Directory」パネルで以前の Identity Manager バージョンのあるディレクトリを選択して、「Next」をクリックします。
アップグレード前のプロセスとアップグレード後のプロセスの進捗バーが表示されたら、「Installation Summary」パネルに進みます。
8. インストールの詳細については、「Details」をクリックしてログファイルを表示し、「閉じる」をクリックしてインストーラを終了します。
9. コンパイルした Identity Manager ファイルのすべてをアプリケーションサーバーの作業ディレクトリから削除します。
10. ゲートウェイをリモートシステムで実行している場合は、次の手順でアップグレードします。
 - a. Windows システムにログインし、ゲートウェイがインストールされているディレクトリに移動します。
 - b. 次のコマンドを実行してゲートウェイサービスを停止します。

```
gateway -k
```
 - c. Windows 2000 以降を使用している場合は、「サービス」MMC プラグインのすべてのインスタンスを終了します。
 - d. 次のコマンドを使用して、リモートゲートウェイサービスを削除します。

```
gateway -r
```
 - e. 既存のゲートウェイファイルのバックアップを作成して削除します。
 - f. 新しいゲートウェイファイルを展開します。

Identity Manager サーバー以外のシステムに新しくアップグレードしたゲートウェイをインストールする場合は、`gateway.zip` ファイルを Identity Manager インストール CD からコピーします。

- g. gateway.zip ファイルをゲートウェイがインストールされていたディレクトリに展開します。
- h. 次のコマンドを実行してゲートウェイサービスをインストールします。
`gateway -i`
- i. 次のコマンドを実行してゲートウェイサービスを開始します。
`gateway -s`

手動アップグレード

環境によっては、Identity Manager インストールおよびアップグレードプログラムを使用せずにアップグレード手順を手動で実行することもできます。

注

- JAVA_HOME 環境変数が設定してあることを確認してください。
 - JAVA_HOME ディレクトリ内の bin ディレクトリがパスにあることを確認します。
 - 以前にインストールされたホットフィックスは、\$WSHOME/patches/HotfixName ディレクトリにアーカイブされます。
-

Windows プラットフォームの場合

次の手順を使用して、サポート対象の Windows プラットフォーム上で Identity Manager を手動でアップグレードします。

1. アプリケーションサーバーと Sun Identity Manager Gateway を停止します。
2. Identity Manager データベースを更新します。詳細な手順については、[57 ページの手順 2](#) を参照してください。
3. 次のコマンドを入力して、環境を設定します。

```
set ISPATH= ソフトウェアをインストールするパス
set WSHOME= Identity Manager インストールまたはステージングディレクトリへのパス
set TEMP= 一時ディレクトリへのパス
```

4. プリプロセスを実行します。

```
mkdir %TEMP%
cd /d %TEMP%
jar -xvf %ISPATH%\%IDM.WAR %
WEB-INF\lib\%idm.jar WEB-INF\lib\%idmcommon.jar
set TMPLIBPTH=%TEMP%\WEB-INF\lib
set CLASSPATH=%TMPLIBPTH%\%idm.jar;%
%TMPLIBPTH%\%idmcommon.jar;
java -classpath %CLASSPATH% -Dwaveset.home=%WSHOME% %
com.waveset.install.UpgradePreProcess
```

5. ソフトウェアをインストールします。

```
cd %WSHOME%  
jar -xvf %ISPATH%\¥IDM.WAR
```

6. ポストプロセスを実行します。

```
java -classpath %CLASSPATH% -Dwaveset.home=%WSHOME%  
com.waveset.install.UpgradePostProcess
```

注 インストーラは、デフォルトの **Configurator** アカウントが名前変更、削除、または無効化されたインストールのアップグレードをサポートします。

インストーラは、アップグレード後のプロセス中に update.xml をインポートするために、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトを表示します。ユーザーまたはパスワードを間違えて入力すると、正しいパスワードを入力するよう求めるプロンプトが 3 回まで表示されます。エラー情報は、インストーラのテキストボックスに表示されます。

手動インストールの場合は、`-U username -P password` フラグを提供して、UpgradePostProcess 手順に資格を渡す必要があります。

7. ステージングディレクトリにインストールした場合は、アプリケーションサーバーに配備するために .war ファイルを作成します。
8. アプリケーションサーバーの作業ディレクトリから **Identity Manager** ファイルを削除します。
9. アップグレードプロセスでこれを行っていない場合は、WEB-INF\classes ディレクトリから \$WSHOME\patches\¥HotfixName ディレクトリに任意のホットフィックスクラスファイルを移動します。
10. アプリケーションサーバーを起動します。
11. **Sun Identity Manager Gateway** をアップグレードして再起動します。詳細な手順については、[58 ページの手順 10](#) を参照してください。

Unix プラットフォームの場合

次の手順を使用して、サポート対象の Unix プラットフォーム上で **Identity Manager** を手動でアップグレードします。

1. アプリケーションサーバーと **Sun Identity Manager Gateway** を停止します。
2. **Identity Manager** データベースを更新します。手順については、[57 ページの手順 2](#) を参照してください。
3. 次のコマンドを入力して、環境を設定します。

```
export ISPATH= ソフトウェアをインストールするパス  
export WSHOME=Identity Manager インストールまたはステージングディレクトリへのパス  
export TEMP= 一時ディレクトリへのパス
```

4. プリプロセスを実行します。

```
mkdir $TEMP
cd $TEMP
jar -xvf $ISPATH/idm.war ¥
WEB-INF/lib/idm.jar WEB-INF/lib/idmcommon.jar
CLASSPATH=$TEMP/WEB-INF/lib/idm.jar:¥
$TEMP/WEB-INF/lib/idmcommon.jar:
java -classpath $CLASSPATH -Dwaveset.home=$WSHOME ¥
com.waveset.install.UpgradePreProcess
```

5. ソフトウェアをインストールします。

```
cd $WSHOME
jar -xvf $ISPATH/idm.war
```

6. ポストプロセスを実行します。

```
java -classpath $CLASSPATH -Dwaveset.home=$WSHOME
com.waveset.install.UpgradePostProcess
```

注

インストーラは、デフォルトの **Configurator** アカウントが名前変更、削除、または無効化されたインストールのアップグレードをサポートします。

インストーラは、アップグレード後のプロセス中に `update.xml` をインポートするために、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトを表示します。ユーザーまたはパスワードを間違えて入力すると、正しいパスワードを入力するよう求めるプロンプトが 3 回まで表示されます。エラー情報は、インストーラのテキストボックスに表示されます。

手動インストールの場合は、`-U username -P password` フラグを提供して、`UpgradePostProcess` 手順に資格を渡す必要があります。

7. `$WSHOME/bin/solaris` または `$WSHOME/bin/linux` ディレクトリに移動して、ディレクトリ内のファイルを実行できる権限を設定します。
8. ステージングディレクトリにインストールした場合は、アプリケーションサーバーに配備するために `.war` ファイルを作成します。
9. アプリケーションサーバーの作業ディレクトリから **Identity Manager** ファイルを削除します。
10. アップグレードプロセスでこれを行っていない場合は、`WEB-INF/classes` ディレクトリから `$WSHOME/patches/HotfixName` ディレクトリにすべてのホットフィックスクラスファイルを移動します。
11. アプリケーションサーバーを起動します。
12. **Sun Identity Manager Gateway** をアップグレードして再起動します。手順については、[58 ページの手順 10](#) を参照してください。

この章では、Identity Manager 6.0 2005Q4M3 以降に非推奨になったすべての Identity Manager API (アプリケーションプログラミングインタフェース) と、その代替となる API (存在する場合) の一覧を示します。この章は次の各節に分かれています。

- 非推奨のコンストラクタ (2-63 ページ)
- 非推奨のメソッドとフィールド (2-65 ページ)

非推奨のコンストラクタ

次の表は、非推奨になったコンストラクタと代替のコンストラクタ (存在する場合) の一覧です。

非推奨のコンストラクタ	代替
com.sun.idm.idmx.IDMXContext	com.waveset.object.LighthouseContext
com.sun.idm.idmx.IDMXContextFactory	com.waveset.session.SessionFactory
com.waveset.adapter.ActiveDirectoryActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter
com.waveset.adapter.AD_LDAPResourceAdapter	com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter
com.waveset.adapter.AttrParse	com.waveset.object.AttrParse
com.waveset.adapter.ConfirmedSync	
com.waveset.adapter.DblBufIterator	com.waveset.util.BufferedIterator com.waveset.util.BlockIterator com.waveset.adapter.AccountIteratorWrapper
com.waveset.adapter.DominoActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.DominoResourceAdapter
com.waveset.adapter.LDAPChangeLogActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter
com.waveset.adapter.NDSActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.NDSResourceAdapter
com.waveset.adapter.PeopleSoftResourceAdapter	

非推奨のコンストラクタ	代替
com.waveset.adapter.RemedyActiveSyncResourceAdapter	com.waveset.adapter.RemedyResourceAdapter
com.waveset.adapter.TopSecretActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter
com.waveset.exception.ConfigurationError	com.waveset.util.ConfigurationError
com.waveset.exception.IOException	com.waveset.util.IOException
com.waveset.exception.XmlParseException	com.waveset.util.XmlParseException
com.waveset.object.IAPI	com.waveset.adapter.iapi.IAPI
com.waveset.object.IAPIProcess	com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory
com.waveset.object.IAPIUser	com.waveset.adapter.iapi.IAPIUser
com.waveset.object.RemedyTemplate	
com.waveset.object.ReportCounter	
com.waveset.object.SourceManager	com.waveset.view.SourceAdapterManagerView
com.waveset.security.authn.LoginInfo	com.waveset.object.LoginInfo
com.waveset.security.authn.SignedString	com.waveset.util.SignedString
com.waveset.security.authn.Subject	com.waveset.object.Subject
com.waveset.security.authz.Permission	com.waveset.object.Permission
com.waveset.security.authz.Right	com.waveset.object.Right
com.waveset.util.Debug	com.sun.idm.logging.Trace
com.waveset.util.HtmlUtil	com.waveset.ui.util.html.HtmlUtil
com.waveset.util.ITrace	com.sun.idm.logging.Trace

非推奨のメソッドとフィールド

ここで示す表は、このリリースで非推奨になったすべてのメソッドとフィールドの一覧です。メソッドとフィールドはクラス名によって並べ替えてあります。

- 列が空白の場合、非推奨のメソッドまたはフィールドの代替はありません。
- クラス名が示されていない場合、代替のメソッドまたはフィールドは、非推奨のメソッドまたはフィールドと同じクラスで定義されます。
- 代替のメソッドまたはフィールドが、非推奨のメソッドまたはフィールドと異なるクラスで定義される場合、Javadoc の構文を使って代替を示しています。たとえば、com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter クラスの getBaseContextAttrName() メソッドは非推奨になりました。その代替メソッドは com.waveset.adapter.ResourceAdapter#ResourceAdapter() のように示されています。

次のように指定します。

- com.waveset.adapter はパッケージ名です。
- ResourceAdapter はクラス名です。
- ResourceAdapter() はメソッドと引数のリストです。

com.waveset.adapter.AccessManagerResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
handlePDException(Exception)	handlePDException(PDException)

com.waveset.adapter.ACF2ResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.ActiveSync

非推奨のメソッド	代替
RA_UPDATE_IF_DELETE	

com.waveset.adapter.ActiveSyncUtil

非推奨のメソッド	代替
getLogFileFullPath()	

com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
buildEvent(UpdateRow)	com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory#getIAPI(Map,Map,ResourceAdapterBase)
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()
RA_UPDATE_IF_DELETE	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_DELETE_RULE

com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.AIXResourceAdapter.BlockAcctIter

非推奨のメソッド	代替
BlockAcctIter(AIXResourceAdapter,CaptureList)	BlockAcctIter(CaptureList)
BlockAcctIter(int,CaptureList)	BlockAcctIter(CaptureList)

com.waveset.adapter.AuthSSOResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.ClearTrustResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.DatabaseTableResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
RA_PROCESS_NAME	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_PROCESS_RULE

com.waveset.adapter.DB2ResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.DominoResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
buildEvent(UpdateRow)	com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory#getIAPI(Map, Map, ResourceAdapterBase)
RA_UPDATE_IF_DELETE	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_DELETE_RULE

com.waveset.adapter.DominoResourceAdapterBase

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.ExampleTableResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.GenericScriptResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.GetAccessResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.HostConnectionPool

非推奨のメソッド	代替
getConnection(HostAccessLogin)	com.waveset.adapter.HostConnPool#getAffinityConnection(HostAccessLogin)
releaseConnection(HostAccess)	com.waveset.adapter.HostConnPool#releaseConnection(HostAccess)

com.waveset.adapter.HostConnPool

非推奨のメソッド	代替
getConnection(HostAccessLogin)	getAffinityConnection(HostAccessLogin)
putFree()	

com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory

非推奨のメソッド	代替
getIAPIDeleteProcess(Map,Map,String,Resource)	getIAPIDeleteProcess(Map,Map,String,ResourceAdapterBase)
getIAPIDeleteProcess(Element)	
getIAPIDeleteUser(Element)	
getIAPIDeleteUser(Map,Map,String,Map)	getIAPIDeleteUser(Map,Map,String,ResourceAdapterBase)
getIAPIDeleteUser(Map,Map,String,Resource)	getIAPIDeleteUser(Map,Map,String,ResourceAdapterBase)

com.waveset.adapter.IDMResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.INISafeNexessResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapterBase

非推奨のメソッド	代替
addUserToGroup(LDAPObject,String,String)	addUserToGroup(String,String,String)
buildBaseUrl()	
buildBaseUrl(String)	
buildEvent(UpdateRow)	
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()
getGroups(Name,String,Vector,Vector)	getGroups(String,String,Vector,Vector)
getLDAPAttributes(String,DirContext[],String)	getLDAPAttributes(String,DirContext,String,String[])
getLDAPAttributes(String,DirContext[])	getLDAPAttributes(String,DirContext,String,String[])
RA_PROCESS_NAME	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_PROCESS_RULE
removeNameFromAttribute(DirContext,Name,Attribute)	removeNameFromAttribute(DirContext,String,boolean,Attribute)
removeUserFromAllGroups(Name,String,WavesetResult)	removeUserFromAllGroups(String,boolean,String,WavesetResult)
removeUserFromGroup(DirContext,Name,String,String,Attributes)	removeUserFromGroup(DirContext,String,boolean,String,String,Attributes)
removeUserFromGroups(Name,Vector,String,WavesetResult)	removeUserFromGroups(String,boolean,Vector,String,WavesetResult)

com.waveset.adapter.MySQLResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.NaturalResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.NDSResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
buildEvent(UpdateRow)	
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()

com.waveset.adapter.ONTDirectorySmartResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.OS400ResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.PeopleSoftComponentActiveSyncAdapter

非推奨のメソッド	代替
DEFAULT_AUDIT_STAMP_FORMAT	
DEFAULT_AUDIT_STAMP_START_DATE	
getAccountAttributes(String)	
getUpdateRows(UpdateRow)	getUpdateRows(UpdateRow)

非推奨のメソッド	代替
RA_AUDIT_STAMP_FORMAT	

com.waveset.adapter.RACFResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.RASecureConnection

非推奨のメソッド	代替
ExchangeAuth(boolean)	ExchangeAuth(boolean,byte[])

com.waveset.adapter.RedHatLinuxResourceAdapter.BlockAcctIter

非推奨のメソッド	代替
BlockAcctIter(int,CaptureList)	BlockAcctIter(SVIDResourceAdapter,CaptureList)

com.waveset.adapter.RequestResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.ResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	getBaseContexts()

com.waveset.adapter.ResourceAdapterBase

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getAdapter(Resource,LighthouseContext)	getAdapterProxy(Resource,LighthouseContext)
getAdapter(Resource,ObjectCache,WSUser)	getAdapterProxy(Resource,ObjectCache)
getAdapter(Resource,ObjectCache)	getAdapterProxy(Resource,LighthouseContext)
getBaseContextAttrName()	getBaseContexts()
isExcludedAccount(String,Rule)	com.waveset.adapter.ResourceAdapterProxy#isExcludedAccount(String,Map,ResourceOperation,Rule)
isExcludedAccount(String)	com.waveset.adapter.ResourceAdapterProxy#isExcludedAccount(String,Map,ResourceOperation,Rule)

com.waveset.adapter.ResourceAdapterProxy

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	getBaseContexts()

com.waveset.adapter.ResourceManager

非推奨のメソッド	代替
getResourceTypes()	getResourcePrototypes() getResourcePrototypes(ObjectCache,boolean)
getResourceTypeStrings()	getResourcePrototypeNames(ObjectCache)

com.waveset.adapter.SAPHRActiveSyncAdapter

非推奨のメソッド	代替
RA_PROCESS_NAME	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_PROCESS_RULE

com.waveset.adapter.SAPResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
unexpirePassword(String,WavesetResult)	unexpirePassword(String,String,String,WavesetResult)
unexpirePassword(WSUser,WavesetResult)	unexpirePassword(String,String,String,WavesetResult)

com.waveset.adapter.ScriptedConnection

サブクラス	非推奨のメソッド	代替
Script	hasNextToken()	
Script	nextToken()	
ScriptedConnection	disconnect()	com.waveset.adapter.ResourceConnection#disconnect()
ScriptedConnectionFactory	getScriptedConnection(String,HashMap)	com.waveset.adapter.ScriptedConnectionPool#getConnection(HashMap,String,long,boolean)
SSHConnection	disconnect()	disconnect()
TelnetConnection	disconnect()	disconnect()

com.waveset.adapter.ScriptedHostResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SkeletonResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SMEResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SQLServerResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SunAccessManagerResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()

com.waveset.adapter.SVIDResourceAdapter.BlockAcctIter

非推奨のメソッド	代替
BlockAcctIter(int,CaptureList)	BlockAcctIter(CaptureList)
BlockAcctIter(SVIDResourceAdapter,CaptureList)	BlockAcctIter(CaptureList)

com.waveset.adapter.SybaseResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.TestResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
hasError(String,String)	hasError(String,String,String)
login(HostAccess hostAccess)	login(HostAccess,ServerAffinity)

com.waveset.adapter.VerityResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.XMLResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.msgcat.Catalog

非推奨のメソッド	代替
getMessage(String,Object[],Locale)	format (Locale,String,Object[])
getMessage(Locale,String,Object[])	format (Locale,String,Object[])
getMessage(Locale,String)	format (Locale,String)
getMessage(String,Locale)	format (Locale,String)
getMessage(String,Object[])	format (Locale,String,Object[])

com.waveset.object.Account

非推奨のメソッド	代替
getUnowned()	hasOwner()
setUnowned(boolean)	setOwner(WSUser)

com.waveset.object.AccountAttributeType

非推奨のメソッド	代替
getAttrType()	getSyntax()
setAttrType(String)	setSyntax(String)
	setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.Attribute

非推奨のメソッド	代替
BLOCK_SIZE	BLOCK_ROWS_GET
	BLOCK_ROWS_LIST
EVENTDATE	EVENT_DATETIME
EVENTTIME	EVENT_DATETIME

非推奨のメソッド	代替
getDbColumnLength()	
getDbColumnName()	
STARTUP_TYPE_AUTO	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_AUTO
STARTUP_TYPE_AUTO_FAILOVER	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_AUTO_FAILOVER
STARTUP_TYPE_DISABLED	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_DISABLED
STARTUP_TYPE_MANUAL	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_MANUAL
STARTUP_TYPES	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPES
STARTUP_TYPES_DISPLAY_NAMES	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPES_DISPLAY_NAMES

com.waveset.object.AttributeDefinition

非推奨のメソッド	代替
AttributeDefinition(String,String)	AttributeDefinition(String,Syntax)
setAttrType(String)	setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.AuditEvent

非推奨のメソッド	代替
setAttributeMap(Map)	setAuditableAttributes(Map)
addAuditableAttributes(AccountAttributeType[], WSAttributes)	setAuditableAttributes(Map)
getAttributeMap()	getAuditableAttributes()
getAttributeValue(String)	getAuditableAttributes()
setAccountAttributesBlob(Map)	setAccountAttributesBlob(Map,Map)
setAccountAttributesBlob(WSAttributes,List)	setAccountAttributesBlob(WSAttributes,WSAttributes,List)

com.waveset.object.CacheManager

非推奨のメソッド	代替
getAllObjects(Type,AttributeCondition[])	listObjects(Type,AttributeCondition[])
getAllObjects(Type,WSAttributes)	listObjects(Type,WSAttributes)
getAllObjects(Type)	listObjects(Type)

com.waveset.object.Constants

非推奨のメソッド	代替
MAX_SUMMARY_STRING_LENGTH	

com.waveset.object.EmailTemplate

非推奨のメソッド	代替
setToAddress(String)	setTo(String)
getFromAddress()	getFrom()
getToAddress()	getTo()
setFromAddress(String)	setFrom(String)
VAR_FROM_ADDRESS	VAR_FROM
VAR_TO_ADDRESS	VAR_TO

com.waveset.object.Form

非推奨のメソッド	代替
EL_HELP	com.waveset.object.GenericObject#toMap(int)
getDefaultDataType()	getDefaultSyntax()
getType()	getSyntax()
setType(String)	setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.GenericObject

非推奨のメソッド	代替
toMap(boolean)	toMap(String,int)
toMap(String,boolean)	

com.waveset.object.LoginConfig

非推奨のメソッド	代替
getApp(String)	getLoginApp(String)

com.waveset.object.MessageUtil

非推奨のメソッド	代替
getActionDisplayKey(String)	
getEventParmDisplayKey(String)	
getResultDisplayKey(String)	
getTypeDisplayKey(String)	com.waveset.ui.FormUtil#getTypeDisplayName(LighthouseContext,String)

com.waveset.object.RepositoryResult

非推奨のメソッド	代替
get(int)	
getId(int)	
getName(int)	
getObject(int)	
getRowCount()	
getRows()	

非推奨のメソッド	代替
seek(int)	hasNext() next()
sort()	

com.waveset.object.RepositoryResult.Row

非推奨のメソッド	代替
getSummaryAttributes()	getAttributes()

com.waveset.object.ResourceAttribute

非推奨のメソッド	代替
setType(String)	setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.TaskInstance

非推奨のメソッド	代替
DATE_FORMAT	com.waveset.util.Util#stringToDate(String,String) com.waveset.util.Util#getCanonicalDate(Date) com.waveset.util.Util#getCanonicalDate(Date,TimeZone) com.waveset.util.Util#getCanonicalDate(long)
VAR_RESULT_LIMIT	setResultLimit(int) getResultLimit()
VAR_TASK_STATUS	

com.waveset.object.TaskTemplate

非推奨のメソッド	代替
setMode(String)	setExecMode(String)
setMode(TaskDefinition.ExecMode)	setExecMode(TaskDefinition,ExecMode)

com.waveset.object.Type

非推奨のメソッド	代替
AUDIT_CONFIG	
AUDIT_PRUNER_TASK	
AUDIT_QUERY	
DISCOVERY	
getSubtypes()	getLegacyTypes()
NOTIFY_CONFIG	
REPORT_COUNTER	
SUMMARY_REPORT_TASK	
USAGE_REPORT	
USAGE_REPORT_TASK	

com.waveset.object.UserUIConfig

非推奨のメソッド	代替
getCapabilityGroups()	
getAppletColumns()	getAppletColumnDefs()
getCapabilityGroup(String)	
getCapabilityGroupNames()	
getFindMatchOperatorDisplayNameKeys()	
getFindMatchOperators()	
getFindResultsColumns()	

非推奨のメソッド	代替
<code>getFindResultsSortColumn()</code>	
<code>getFindUserDefaultSearchAttribute()</code>	
<code>getFindUserSearchAttributes()</code>	
<code>getFindUserShowAttribute(int)</code>	
<code>getFindUserShowCapabilitiesSearch(int)</code>	
<code>getFindUserShowDisabled(int)</code>	
<code>getFindUserShowOrganizationSearch(int)</code>	
<code>getFindUserShowProvisioningSearch(int)</code>	
<code>getFindUserShowResourcesSearch(int)</code>	
<code>getFindUserShowRoleSearch(int)</code>	

com.waveset.object.ViewMaster

非推奨のメソッド	代替
<code>ViewMaster()</code>	<code>ViewMaster(LighthouseContext)</code>
<code>ViewMaster(String,String)</code>	<code>ViewMaster(LighthouseContext)</code>
<code>ViewMaster(Subject,String)</code>	<code>ViewMaster(LighthouseContext)</code>

com.waveset.session

サブクラス	非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
Session	<code>listApprovers()</code>	<code>getAdministrators(Map)</code>
	<code>listControlledApprovers()</code>	<code>getAdministrators(Map)</code>
	<code>listSimilarApprovers(String adminName)</code>	<code>getAdministrators(Map)</code>
SessionFactory	<code>getApp(String)</code>	<code>getLoginApp(String)</code>
	<code>getApps()</code>	<code>getLoginApps()</code>
WorkflowServices	<code>ARG_TASK_DATE</code>	<code>com.waveset.object.Attribute#DATE</code>

com.waveset.task.TaskContext

非推奨のメソッド	代替
getAccessPolicy()	
getRepository()	

com.waveset.ui.util.FormUtil

非推奨のメソッド	代替
getAdministrators(Session,List)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getAdministrators(Session,Map)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApplications(LighthouseContext,List)	getApplications(LighthouseContext,Map)
getApplications(LighthouseContext)	getApplications(LighthouseContext,Map)
getApproverNames(Session,List)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApproverNames(Session)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApprovers(Session,List)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApprovers(Session)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getCapabilities(LighthouseContext,List,Map)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getCapabilities(LighthouseContext,List)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getCapabilities(LighthouseContext,String,String)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getCapabilities(LighthouseContext)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,List,Map)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,List)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,String,String,List,Map)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,String,String,List)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,String,String,List,Map)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,String,String,List)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)

非推奨のメソッド	代替
<code>getOrganizations(LighthouseContext,boolean,List)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizations(LighthouseContext,boolean)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizations(LighthouseContext,List)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizations(LighthouseContext)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,boolean,List)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,boolean)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext,List)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext,List)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getSimilarApproverNames(Session,String)</code>	<code>getUsers(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getSimilarApproverNames(Session)</code>	<code>getUsers(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getUnassignedOrganizations(LighthouseContext,List)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getUnassignedOrganizations(LighthouseContext)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getUnassignedOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,List)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getUnassignedOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>
<code>getUnassignedOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext)</code>	<code>getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)</code>

非推奨のメソッド	代替
getUnassignedOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext,List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getUnassignedOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getUnassignedOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext,List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getUnassignedOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getUnassignedResources(LighthouseContext,List,List)	getUnassignedResources(LighthouseContext,Map)
getUnassignedResources(LighthouseContext,String,List)	getUnassignedResources(LighthouseContext,Map)
getUnassignedResources(LighthouseContext,String)	getUnassignedResources(LighthouseContext,Map)

com.waveset.ui.util.html

サブクラス	非推奨のメソッド	代替
Component	isNoWrap()	
	setHelpKey(String)	
	setNoWrap(boolean)	
HtmlHeader	NORMAL_BODY	
MultiSelect	isLockhart()	
	setLockhart(boolean)	
WizardPanel	setPreviousLabel(String)	setPrevLabel(String)

com.waveset.util.JSSE

非推奨のメソッド	代替
installIfAvailable()	

com.waveset.util.PdfReportRenderer

非推奨のメソッド	代替
render(Element,boolean,String,OutputStream)	render(Element,boolean,String,OutputStream,String,boolean)
render(Element,boolean,String)	render(Element,boolean,String,String,boolean)
render(Report,boolean,String,OutputStream)	render(Report,boolean,String,OutputStream,String,boolean)
render(Report,boolean,String)	render(String,boolean,String,String,boolean)

com.waveset.util.Quota

非推奨のメソッド	代替
getQuota()	

com.waveset.util.ReportRenderer

非推奨のメソッド	代替
renderToPdf(Report,boolean,String,OutputStream)	renderToPdf(Report,boolean,String,OutputStream,String,boolean)
renderToPdf(Report,boolean,String)	renderToPdf(Report,boolean,String,String,boolean)

com.waveset.util.Trace

非推奨のメソッド	代替
data(long,Object,String,byte[])	com.sun.idm.logging.trace.Trace#data(long,String,byte[])
entry(long,Object,String,Object[])	com.sun.idm.logging.trace.Trace#entry(long,String,Object[])
entry(long,Object,String,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#entry(long,String)
entry(long,Object,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#entry(long,String)

非推奨のメソッド	代替
exception(long, Object, String, t)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#throwing(long, String, Throwable) com.sun.idm.logging.trace.Trace#caught(long, String, Throwable)
exit(long, Object, String, boolean)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long, String, boolean)
exit(long, Object, String, int)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long, String, int)
exit(long, Object, String, long)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long, String, long)
exit(long, Object, String, Object)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long, String, Object)
exit(long, Object, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long, String)
getTrace()	com.sun.idm.logging.trace.TraceManager#getTrace(String)
getTrace(Class)	com.sun.idm.logging.trace.TraceManager#getTrace(String)
getTrace(String)	com.sun.idm.logging.trace.TraceManager#getTrace(String)
level1(Class, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level1(String)
level1(Object, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level1(String)
level2(Class, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level2(String)
level2(Object, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level2(String)
level3(Class, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level3(String)
level3(Object, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level3(String)
level4(Class, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level4(String)
level4(Object, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level4(String)
variable(long, Object, String, String, boolean)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long, String, String, boolean)
variable(long, Object, String, String, int)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long, String, String, int)
variable(long, Object, String, String, long)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long, String, String, long)
variable(long, Object, String, String, Object)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long, String, String, Object)
void info(long, Object, String, String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#info(long, String, String)

com.waveset.util.Util

非推奨のメソッド	代替
DATE_FORMAT_CANONICAL	stringToDate(String,String) getCanonicalDate(Date) getCanonicalDate(Date,TimeZone) getCanonicalDate(long)
debug(Object)	
getCanonicalDateFormat()	stringToDate(String,String) getCanonicalDate(Date) getCanonicalDate(Date,TimeZone) getCanonicalDate(long)
getOldCanonicalDateString(Date,boolean)	getCanonicalDateString(Date)
rfc2396URLPieceEncode(String,String)	com.waveset.util.RFC2396URLPieceEncode#encode(String,String)
rfc2396URLPieceEncode(String)	com.waveset.util.RFC2396URLPieceEncode#encode(String)

com.waveset.workflow.WorkflowContext

非推奨のメソッド	代替
VAR_CASE_TERMINATED	com.waveset.object.WFProcess#VAR_CASE_TERMINATED

ドキュメントの追加事項と修正事項

ここでは、Identity Manager 7.0 マニュアルセットが発行されたあとに必要なとなった新しい情報と修正情報を記載しています。この情報は、次のように構成されています。

- [Identity Manager Installation](#)
- [Identity Manager Upgrade](#)
- [Identity Manager 管理ガイド](#)
- [Identity Manager Resources Reference](#)
- [Identity Manager の配備に関する技術概要](#)
- [Identity Manager Workflows, Forms, and Views](#)
- [Identity Manager Deployment Tools](#)
- [Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages](#)
- [Identity Manager Service Provider Edition Deployment](#)
- [helpTool の使用](#)

Identity Manager Installation

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager Installation』に関連する新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

次の新しい情報が『Identity Manager Installation』に追加されました。

- Identity Auditor と Identity Manager SPE が Identity Manager に統合されたため、これらの以前の製品のインストール手順が削除されました。
- JBoss アプリケーションサーバーへの Identity Manager のインストール方法を説明する章を追加しました。

修正情報

ここでは、『Identity Manager Installation』の修正情報を記載しています。

- 第1章、「Before You Install」では、サポート対象のリポジトリの一覧に MySQL 5.0 も含まれます。また、サポート対象のアプリケーションサーバーの一覧に Tomcat 5.5 が含まれるようになります。
- 第12章、「Uninstalling Applications」「On UNIX」の節の手順3は、正しくは次のとおりです。

3. 次のコマンドを入力します。

```
JAVA uninstall_Sun_Java_System_Identity_Manager
```

Identity Manager Upgrade

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager Upgrade』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

次の新しい情報が『Identity Manager Upgrade』に追加されました。

- Identity Manager 6.0 および 7.0 のリポジトリスキーマのアップグレード手順が第3章「Upgrading Identity Manager in a Test Environment」の「Deploying the Upgrade in a Test Environment」の節で説明されています。
- 本稼働環境での TaskDefinition オブジェクトのアップグレード手順が第4章「Upgrading Identity Manager in the Production Environment」の「Changing TaskDefinition Objects in Production」の節で説明されています。
- Identity Manager ソフトウェア製品の推奨アップグレードパスとサービス終了ポリシーを説明した新しい情報が第1章「Overview of the Upgrade Process」の「Upgrade Paths and End of Service Life」の節で説明されています。

Identity Manager 管理ガイド

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager 管理ガイド』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

複数のマニュアル (『Identity Auditor 管理ガイド』、『Identity Manager Service Provider Edition Administration Addendum』、および『Identity Manager Audit Logging』) が『Identity Manager 管理ガイド』に統合されたため、複数の新しい章がこの版で追加されました。

次の情報は『Identity Manager 管理ガイド』での新情報です。

- 第 4 章: 「設定」

新しい一括リソースアクションとグローバルリソースポリシーを説明するために新しい節が追加されました。

- 第 5 章: 「管理」

管理者ロールおよび機能の理解と管理についての情報が「設定」の章から「管理」の章に移動しています。

- 第 7 章: 「レポート」

ダッシュボードを使用してグラフィカルレポートをグループ化し、表示するための新しい情報がこの章に追加されています。以前は『Identity Manager Service Provider Edition Administration Addendum』にありました。また、レポートの種類が更新され、監査レポートが含まれるようになりました。

- 第 11 章: 「アイデンティティ監査」

この新しい章は、Identity Manager で使用できるようになったアイデンティティ監査機能について説明しています。この章では、アイデンティティ監査とアクセスレビューの実施方法とユーザーコンプライアンスの管理方法を説明しています。

- 第 12 章: 「監査ログ」

監査ログ情報が『Identity Manager 管理ガイド』に追加されました。また、監査ログでサポートされているデータスキーマ値をリストした表が付録 C 「監査ログデータベーススキーマ」に移動しています。

- 第 13 章: 「サービスプロバイダの管理」

この新しい章では、Identity Manager でサービスプロバイダ機能を設定する方法とサービスプロバイダユーザー (Identity Manager の新しいタイプのユーザー) を管理する方法について説明しています。

- 付録 D: 「Active Sync ウィザード」

Active Sync ウィザードはバージョン 7.0 で非推奨になりました。Active Sync ウィザードを使用して同期を設定する手順は付録 D に移動しています。同期は同期ポリシーを使用して設定するようになり、第 6 章「データの同期と読み込み」の「同期の設定」で説明されています。

修正情報

ここでは、『Identity Manager 管理ガイド』ドキュメントの修正事項を記載しています。

- Identity Manager には、追跡してグラフまたはチャートとして表示できる新しいイベントがいくつか追加されています。
 - **プロビジョニングツールの実行回数**: プロビジョニングツール操作が発生した数を追跡します (操作タイプごと)。
 - **プロビジョニングツールの実行期間**: 各プロビジョニングツール操作の期間を追跡します (操作タイプごと)。
 - **リソース操作の回数**: リソース操作の数を追跡します。
 - **リソース操作期間**: リソース操作の期間を追跡します。
 - **ワークフロー時間**: ワークフローの実行にかかった時間を追跡します。
 - **プロビジョニングツールの実行期間**: 各ワークフローが実行される回数を追跡します。

これらのイベントは、ダッシュボードグラフを作成する場合に「ダッシュボードグラフ」ページに表示される「追跡するイベント」メニューから選択します。

- a. Identity Manager 管理インターフェースから「レポート」> 「ダッシュボードグラフ」を選択します。
- b. ダッシュボードグラフの最後までスクロールして、「新規」をクリックし、新しいダッシュボードグラフを作成します。
- c. 「グラフ名」フィールドに名前を入力して、「レジストリ」メニューから「IDM」を選択します。
- d. 「追跡するイベント」メニューが表示されたら、メニューからこれらのイベントのうち 1 つを選択できます。

これらの追跡イベントごとに異なるパラメータが必要です。必要なパラメータを指定して「保存」を選択します。

- e. ワークフローをいくつか開始し、予想した情報がダッシュボードグラフに反映されることを確認します。

第 2 章、「Identity Manager 入門」

「Identity Manager ユーザーインターフェース」の節にある「リクエスト」オプションの説明は、正しくは次のとおりです。

リクエスト - ユーザーアカウントリソース割り当てとロール割り当てに対する更新のリクエストを送信します。

第 3 章、「ユーザーとアカウントの管理」

アイデンティティ監査に関連する「アカウント」>「アカウントのリスト」タブから 2 つの新しいユーザーアクションが使用できるようになりました。

- コンプライアンス違反ログの表示 - 選択したユーザーの監査ログに記録されたコンプライアンス違反を表示します。

表示するログエントリのタイムラインを選択したり、日付や日付範囲を指定したりできます。また、電子メールレポートを指定することもできます。ただし、アカウント ID やアカウント履歴のような機密情報が電子メールで漏洩する可能性があることに注意してください。必要に応じて、レポートのデフォルト PDF オプションを上書きできます。

- コンプライアンスステータスの表示 - 選択したユーザーのコンプライアンス動作の現在のステータスに関する情報を表示します。この操作は、最後の監査ポリシースキャンの時間とデータ、割り当てられた監査ポリシー、ユーザーのポリシーの免除および違反についての詳細を報告します。

これらのオプションは、これまで Identity Auditor の「コンプライアンス」>「ユーザー」タブから使用できました。

第 6 章、「データの同期と読み込み」

読み込み操作中にアイデンティティ属性を適用できるようになりました。

読み込み操作中にアイデンティティ属性を適用できるようにするには、「ファイルから読み込み」または「リソースから読み込み」をアイデンティティ属性の有効なアプリケーションのリストに追加します。

有効にした場合、読み込み操作に次のオプションは表示されません。

- ユーザーフォーム
- 属性の更新
- 属性値のマージ

「アカウントの更新」オプションを選択すると、アイデンティティ属性がすべて完全に処理され、アカウントが再プロビジョンされます。それ以外の場合は、ファイルからの属性またはリソースからの属性のみが読み込まれ、アイデンティティユーザーへのフローが処理されます。

第 9 章、「PasswordSync」

パスワード同期のための JMS リスナーアダプタの設定は、Active Sync ウィザードではなく、メタビューで実行するようになりました。

パスワード同期のために JMS リスナーアダプタを設定するには、次の手順に従います。

1. Identity Manager 管理インタフェースにログインします。
2. 「メタビュー」> 「アイデンティティ属性」をクリックします。
3. 次の属性を追加します。
 - accountID - 「属性名」フィールドでこの属性を選択したあと、JMS リソースから IDMAccountid 属性を選択します。
 - password - 「属性名」フィールドでこの属性を選択したあと、JMS リソースから password 属性を選択します。
4. 必要に応じて属性プロパティを設定します。属性プロパティの設定の詳細については、『Identity Manager 管理ガイド』の第 3 章「アイデンティティ属性の追加と編集」を参照してください。
5. 必要に応じてターゲットを指定します。たとえば、必要に応じて LDAP ターゲットを追加したり、ターゲット属性の条件を編集したりできます。
6. 「OK」をクリックして「アイデンティティ属性」ページに戻ります。
7. 「有効なアプリケーション」エリアで Active Sync アプリケーションを選択します。
8. 「保存」をクリックします。
9. 『Identity Manager 管理ガイド』の第 6 章にある Active Sync アダプタの「同期の設定」の手順に従って、JMS リスナーアダプタの同期を設定します。

第 11 章、「アイデンティティ監査」

- 次の注が、「アイデンティティ監査」の章の「アテステーション」節から削除されていました。

注：アテステーションのセキュリティーが管理されている組織に設定されている場合、別のユーザーのアテステーションを変更するためには Auditor Attestor の機能も必要です。

- 「エスカレーションタイムアウトの調整」の節に記述されているエスカレーションタイムアウトのデフォルト値の正しい値は、7 日間です。

Identity Manager Resources Reference

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager Resources Reference』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

次の新しい情報が『Identity Manager Resources Reference』に追加されました。

- BridgeStream SmartRoles アダプタ
- スクリプト JDBC アダプタ
- Sun Java System Access Manager でのレルムのサポート

修正情報

シェルスクリプトアダプタの「Provisioning Notes」の表には、アカウントの有効化と無効化がサポートされているという情報が記載されるべきです。

Identity Manager の配備に関する技術概要

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager の配備に関する技術概要』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

次の新しい情報が『Identity Manager の配備に関する技術概要』に追加されました。

- 1 人の Identity Manager ユーザーに対する 1 つのリソース上での複数のアカウントの処理方法 (付録 C、「リソース上の 1 ユーザーに対して複数のアカウントを割り当てる」)
- 製品インタフェースのプライベートトラベリング手順の更新 (第 5 章、「Identity Manager のプライベートトラベリング」)
- 使用可能な各言語のログインページでのリンクの作成方法 (付録 B、「国際化サポートを有効にする」)

修正情報

ここでは、『Identity Manager の配備に関する技術概要』の修正事項を記載しています。

- CSS を使用して、ユーザーリストテーブルとリソースリストテーブルの列の幅を固定ピクセルやパーセンテージ値に設定できます。これを行うには、次のスタイルクラスを `customStyle.css` に追加します。このクラスはデフォルトではコメントアウトされています。その後、値をユーザーの要件に合うように編集できます。

```
th#UserListTreeContent_Col0 {
    width: 1px;
}

th#UserListTreeContent_Col1 {
    width: 1px;
}

th#UserListTreeContent_Col2 {
    width: 50%;
}

th#UserListTreeContent_Col3 {
    width: 50%;
}

th#ResourceListTreeContent_Col0 {
    width: 1px;
}

th#ResourceListTreeContent_Col1 {
    width: 1px;
}

th#ResourceListTreeContent_Col2 {
    width: 33%;
}

th#ResourceListTreeContent_Col3 {
    width: 33%;
}

th#ResourceListTreeContent_Col4 {
    width: 33%;
}
```

また、列ヘッダーの右側の境界線をクリックしてドラッグし、表の列のサイズを変えることもできます。列ヘッダーの右側の境界線上にマウスを置くと、カーソルが水平のサイズ変更矢印に変わります。左クリックしてカーソルをドラッグすると、列のサイズが変更されます。マウスボタンを離すとサイズ変更が完了します。

- **System Configuration** オブジェクトに、記録する過去の委任の数を管理する `security.delegation.historyLength` 属性が追加されました。

- アクセスレビューダッシュボードと **Access Review Detail Report** の両方に、監査ログで記録されたレビューのインスタンスが表示されます。データベースのメンテナンスをしないと、監査ログが削除されず、レビューのリストが大きくなります。**Identity Manager** では、表示されるレビューを特定の期間範囲に制限できます。この制限を変更するには、`compliance/dashboard.jsp` (ダッシュボードの場合) と `sample/auditortasks.xml` (詳細レポートの場合) をカスタマイズする必要があります。デフォルトは、2 年以内のレビューのみを表示します。

アクセスレビューダッシュボードに表示されるレビューを制限するには、`compliance/dashboard.jsp` を次のようにカスタマイズします。

- Identity Manager IDE** または選択したエディタで `compliance/dashboard.jsp` を開きます。
- リストを過去半年に実行されたレビューに制限するには、`form.setOption("maxAge", "2y");` 行を `form.setOption("maxAge", "6M");` に変更します。修飾子は、正しくは次のとおりです。
 - m - 分
 - h - 時間
 - d - 日
 - w - 週
 - M - 月
 - y - 年

監査ログに存在するレビューをすべて表示するには、この行をコメントアウトします。

Access Review Detail Report に含まれるレビューを制限するには、次の手順に従います。

- IDE または選択したエディタで `sample/auditortasks.xml` を開きます。
- 次のように行を変更します。

```
<s>maxAge</s>
<s>2y</s>
```

上記の行を次のように変更します。

```
<s>maxAge</s>
<s>6M</s>
```

これで、過去半年のレビューに制限されます。上記と同じ修飾子を適用します。

各定期的アクセスレビューには、レビューの実行時に作成された一連の **UserEntitlement** レコードが含まれています。これらのレコードは、時間とともに蓄積され、アカウントについての重要な履歴情報を提供します。ただし、データベース領域を節約するには、一部のレコードの削除を検討してください。「サーバータスク」>「タスクの実行」>「アクセスレビューの削除」を実行するとレコードを削除できます。レビューを削除するとレビューが削除されたことを示す新しい監査ログエントリが追加され、そのレビューに関連する **UserEntitlement** レコードをすべて削除します。これによってデータベース領域を節約できます。

- 第 5 章の「ログインページの背景画像を変更する」の節では、コードの 3 行目は、正しくは次のとおりです。

```
url(../images/other/login-backimage2.jpg)
```

- コード例 5-5 には、コード例 5-4 に表示されるはずの情報が含まれています。コード例 5-4 は、正しくは次のとおりです。

コード例 5-4 ナビゲーションタブのカスタマイズ

```
/* LEVEL 1 TABS */
.TabLvl1Div {
    background-image:url(../images/other/dot.gif);
    background-repeat:repeat-x;
    background-position:left bottom;
    background-color:#333366;
    padding:6px 10px 0px;
}
a.TabLvl1Lnk:link, a.TabLvl1Lnk:visited {
    display:block;
    padding:4px 10px 3px;
    font: bold 0.95em sans-serif;
    color:#FFF;
    text-decoration:none;
    text-align:center;
}
table.TabLvl1Tbl td {
    background-image:url(../images/other/dot.gif);
    background-repeat:repeat-x;
    background-position:left top;
    background-color:#666699;
    border:solid 1px #abab5;
}
table.TabLvl1Tbl td.TabLvl1TblSelTd {
    background-color:#9999CC;
    background-image:url(../images/other/dot.gif);
    background-repeat:repeat-x;
    background-position:left bottom;
    border-bottom:none;
}

/* LEVEL 2 TABS */
.TabLvl2Div {
    background-image:url(../images/other/dot.gif);
    background-repeat:repeat-x;
    background-position:left bottom;
    background-color:#9999CC;
    padding:6px 0px 0px 10px
}
a.TabLvl2Lnk:link, a.TabLvl2Lnk:visited{
    display:block;
    padding:3px 6px 2px;
    font: 0.8em sans-serif;
    color:#333;
    text-decoration:none;
```

コード例 5-4 ナビゲーションタブのカスタマイズ (続き)

```

        text-align:center;
    }
    table.TabLvl2Tbl div.TabLvl2SelTxt {
        display:block;
        padding:3px 6px 2px;
        font: 0.8em sans-serif;
        color:#333;
        font-weight:normal;
        text-align:center;
    }
    table.TabLvl2Tbl td {
        background-image:url(../images/other/dot.gif);
        background-repeat:repeat-x;
        background-position:left top;
        background-color:#CCCCFF;
        border:solid 1px #aba1b5;
    }
    table.TabLvl2Tbl td.TabLvl2TblSelTd {
        border-bottom:none;
        background-image:url(../images/other/dot.gif);
        background-repeat:repeat-x;
        background-position:left bottom;
        background-color:#FFF;
        border-left:solid 1px #aba1b5;
        border-right:solid 1px #aba1b5;
        border-top:solid 1px #aba1b5;
    }

```

コード例 5-5 は、正しくは次のとおりです。

コード例 5-5 タブパネルのタブの変更

```

table.Tab2TblNew td
{background-image:url(../images/other/dot.gif);background-repeat:repeat-x;background-position:left top;background-color:#CCCCFF;border:solid 1px #8f989f}
table.Tab2TblNew td.Tab2TblSelTd
{border-bottom:none;background-image:url(../images/other/dot.gif);background-repeat:repeat-x;background-position:left bottom;background-color:#FFF;border-left:solid 1px #8f989f;border-right:solid 1px #8f989f;border-top:solid 1px #8f989f}

```

Identity Manager Workflows, Forms, and Views

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager Workflows, Forms, and Views』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

次の新しい情報が『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』に追加されました。

- `getSubordinates` `FormUtil` メソッドの説明 (第 4 章、「`FormUtil Methods`」)。
- `<set>` `XPRESS` 関数と関連する関数の改良された説明 (第 6 章、「`XPRESS Language`」)。
- `inlineAlert` `HTML` 表示コンポーネントの説明 (第 8 章、「`HTML Display Components`」)。
- 既存のアカウントの自動リンクを無効にする方法 (第 3 章、「`Identity Manager Forms`」)。

修正情報

ここでは、『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』ドキュメントの修正事項を記載しています。

- 次のフィールドをフォームに追加して、ユーザーフォームでのポリシーチェックを無効にできます。

```
<Field name='viewOptions.CallViewValidators'>
  <Display class='Hidden' />
  <Expansion>
    <s>false</s>
  </Expansion>
</Field>
```

このフィールドは、`modify.jsp` の `OP_CALL_VIEW_VALIDATORS` フィールドの値を上書きします。

- **Identity Manager** ユーザーインタフェースページには、ナビゲーションバーを実装する 2 つ目の `XPRESS` フォームがあります。この結果、描画されるページには、次のようにそれぞれ異なる名前属性が付いた 2 つの `<FORM>` タグが含まれます。

```
<form name="endUserNavigation"> と <form name="mainform">
```

これらの 2 つの <FORM> 要素の混同を避けるには、name 属性を `document.mainform` または `document.endUserNavigation` のように使用して、参照している <FORM> を区別するようにします。

- 第 3 章、「Identity Manager Forms」の Field 要素の説明で、正しくは `confirm` 属性の次の説明が含まれます。

`confirm`- フォームの送信時に、2 つのフィールドの値が必ず一致するように使用します。この属性の値は、値がこのフィールドと一致すると予測されるフォームで定義されたもう一方のフィールドの名前になります。

Identity Manager Deployment Tools

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager Deployment Tools』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

次の新しい情報が『Identity Manager Deployment Tools』に追加されました。

- 定期的アクセスレビューに関連する複数の新しい規則が「Working with Rules」の章に追加されました。
- BPE を使用した規則の作成と編集の説明が第 2 章「Working with Rules」から付録 A、「Using the Identity Manager BPE」の新しい「Creating and Editing Rules」という節に移動しました。
- 新しい第 1 章「Using the Identity Manager IDE」は新しい Identity Manager 統合開発環境 (Identity Manager IDE) のインストールと使用方法を説明しています。

この Java アプリケーションは完全に統合された NetBeans プラグインで、使用している配備で Identity Manager オブジェクトを表示、カスタマイズ、およびデバッグできます。Identity Manager IDE は、Identity Manager のビジネスプロセスエディタ (BPE) アプリケーションに代わるものとして設計されています。

- 既存の「Using the Identity Manager BPE」の章は付録に変更になりました。
- 新しい第 8 章「Using SPML 2.0 with Identity Manager Web Services」では、Identity Manager でサポートされる新しい SPML 2.0 について説明しています。これには、サポートされる機能とその理由、SPML 2.0 サポートの設定手順、フィールドでのサポートの拡張方法が含まれます。

Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

次の新情報が『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』に追加されました。

- サービスプロバイダユーザーをリストまたはアクセスしている場合と、サービスプロバイダユーザーのログイン中に AdminRoles を割り当てる場合の、承認フローの追跡に関する情報。第2章「Troubleshooting and Tracing」の新しい「SPE Delegated Administration Tracing」の節を参照してください。
- SystemLog レポートの表示方法を説明する指示は、第3章「Errors and Exceptions」の「Viewing SystemLog Reports」の節にあります。
- 新しいエラーメッセージ形式と表示についての情報は、第3章「Errors and Exceptions」の「Overview」の節にあります。

修正情報

一部のタスクはアダプタからタスクパッケージに移動しています。次のいずれかのタスクの追跡を有効にしている場合、またはこれらのパッケージを参照するカスタマイズされたタスク定義がある場合は、これらのパスを更新してください。

古いパッケージ名	新しいパッケージ名
com.waveset.adapter.ADSyncFailoverTask	com.waveset.task.ADSyncFailoverTask
com.waveset.adapter.ADSyncRecoveryCollectorTask	com.waveset.task.ADSyncRecoveryCollectorTask
com.waveset.adapter.SARunner	com.waveset.task.SARunner
com.waveset.adapter.SourceAdapterTask	com.waveset.task.SourceAdapterTask

Identity Manager Service Provider Edition Deployment

ここでは、『Sun Java™ System Identity Manager SPE Deployment』の新しい情報とドキュメントの修正事項を記載しています。

最新情報

- Identity Manager と Identity Manager SPE は、同じ監査システムを使用するようになりました。その結果、監査の説明が『Identity Manager Deployment Tools』に移動しました。
- Identity Manager SPE は、IDMXContext の代わりに LighthouseContext を使用するようになりました。その結果、IDMXContext についての章が置き換えられました。

helpTool の使用

Identity Manager 6.0 リリースでは、HTML 形式のオンラインヘルプおよびマニュアルファイルを検索できる新しい機能が追加されました。検索エンジンは SunLabs の「Nova」検索エンジン技術をベースとしています。

Nova エンジンの使用には、インデックス作成と検索の 2 つの段階があります。インデックス作成段階では、入力ドキュメントが分析され、検索段階で使用されるインデックスが作成されます。検索では、検索語が見つかったコンテキストで構成される「パッセージ」を抽出することが可能です。パッセージ検索プロセスでは元の HTML ファイルが存在している必要があるため、これらのファイルが、検索エンジンがアクセス可能なファイルシステム内の場所に存在している必要があります。

helpTool は、次の 2 つの基本機能を実行する Java プログラムです。

- 検索エンジンが認識している場所に HTML ソースファイルをコピーします。
- 検索段階で使われるインデックスを作成します。

helpTool はコマンド行から次のようにして実行します。

```
$ java -jar helpTool.jar
使用法: HelpTool
-d      検索先ディレクトリ
-h      このヘルプ情報
-i      入力ファイルを含むディレクトリまたは JAR、ワイルドカードは不可
-n      Nova インデックスのディレクトリ
-o      出力ファイル名
-p      プロパティファイルのインデックス作成
```

オンラインヘルプインデックスの再構築 / 再作成

オンラインヘルプの HTML ファイルは JAR ファイルにパッケージ化されています。これらのファイルを、検索エンジン用のディレクトリに展開する必要があります。次の手順を使用します。

1. helpTool の配布パッケージを一時ディレクトリに展開します (詳細は未定)。
この例では、ファイルを /tmp/helpTool に展開します。
2. UNIX シェルまたは Windows のコマンドウィンドウで、Identity Manager アプリケーションが Web コンテナに配備されたディレクトリに移動します。
たとえば、Sun Java System Application Server のディレクトリは、正しくは次のとおりです。
/opt/SUNWappserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/idm
3. 現在の作業ディレクトリを help/ ディレクトリに変更します。

注 このディレクトリから helpTool を実行することが重要です。そうしないと、インデックスが正しく作成されません。また、index/help/ サブディレクトリの内容を削除することによって、古いインデックスファイルを削除することをお勧めします。

4. コマンド行引数に指定する次の情報を収集します。
 - **検索先ディレクトリ** - html/help/ja_JP

注 インストール環境に適したロケール文字列を使用してください。

- **入力ファイル** - ../WEB-INF/lib/idm_l10n_ja_JP.jar
- **Nova インデックスディレクトリ** - index/help
- **出力ファイル名** - index_files_help.txt

注 出力ファイルの名前は重要ではありませんが、そのファイルがすでに存在する場合、ツールは終了します。

- **インデックス作成プロパティファイル** - index/index.properties
5. 次のコマンドを実行します。

```
$ java -jar /tmp/helpTool/helpTool.jar -d html/help/ja_JP -i ../
WEB-INF/lib/idm_l10n_ja_JP.jar -n index/help -o help_files_help.txt -p
index/index.properties
```

Extracted 475 files.

[15/Dec/2005:13:11:38] PM Init index/help AWord 1085803878

[15/Dec/2005:13:11:38] PM Making meta file: index/help/MF: 0

[15/Dec/2005:13:11:38] PM Created active file: index/help/AL

[15/Dec/2005:13:11:40] MP Partition: 1, 475 documents, 5496 terms.

[15/Dec/2005:13:11:40] MP Finished dumping: 1 index/help 0.266

[15/Dec/2005:13:11:40] IS 475 documents, 6.56 MB, 2.11 s, 11166.66 MB/h

[15/Dec/2005:13:11:40] PM Waiting for housekeeper to finish

[15/Dec/2005:13:11:41] PM Shutdown index/help AWord 1085803878

マニュアルインデックスの再構築 / 再作成

マニュアルインデックスを再構築または再作成するには、次の手順を使用します。

1. helpTool の配布パッケージを一時ディレクトリに展開します (詳細は未定)。
この例では、ファイルを /tmp/helpTool に展開します。
2. UNIX シェルまたは Windows のコマンドウィンドウで、Identity Manager アプリケーションが Web コンテナに配備されたディレクトリに移動します。
たとえば、Sun Java System Application Server のディレクトリは、正しくは次のとおりです。
/opt/SUNWappserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/idm
3. 現在の作業ディレクトリを help/ ディレクトリに変更します。

注	このディレクトリから helpTool を実行する必要があります。そうしないと、インデックスが正しく作成されません。また、index/docs/ サブディレクトリの内容を削除することによって、古いインデックスファイルを削除することをお勧めします。
----------	--

4. コマンド行引数に指定する次の情報を収集します。
 - 検索先ディレクトリ - html/docs
 - 入力ファイル - ../doc/HTML/en_US

注	ツールは en_US/ ディレクトリとサブディレクトリを検索先にコピーします。
----------	---

- **Nova インデックスディレクトリ** - index/docs
- **出力ファイル名** - index_files_docs.txt

注	ファイルの名前は重要ではありませんが、そのファイルがすでに存在する場合、ツールは終了します。
----------	--

- **インデックス作成プロパティファイル** - index/index.properties

5. 次のコマンドを実行します。

```
$ java -jar /tmp/helpTool/helpTool.jar -d html/docs -i ../doc/HTML/en_US -n  
index/docs -o help_files_docs.txt -p index/index.properties
```

Copied 84 files.

Copied 105 files.

Copied 1 files.

Copied 15 files.

Copied 1 files.

Copied 58 files.

Copied 134 files.

Copied 156 files.

Copied 116 files.

Copied 136 files.

Copied 21 files.

Copied 37 files.

Copied 1 files.

Copied 13 files.

Copied 2 files.

Copied 19 files.

Copied 20 files.

Copied 52 files.

Copied 3 files.

Copied 14 files.

Copied 3 files.

Copied 3 files.

Copied 608 files.

[15/Dec/2005:13:24:25] PM Init index/docs AWord 1252155067

[15/Dec/2005:13:24:25] PM Making meta file: index/docs/MF: 0

[15/Dec/2005:13:24:25] PM Created active file: index/docs/AL

[15/Dec/2005:13:24:28] MP Partition: 1, 192 documents, 38488 terms.

[15/Dec/2005:13:24:29] MP Finished dumping: 1 index/docs 0.617

[15/Dec/2005:13:24:29] IS 192 documents, 14.70 MB, 3.81 s, 13900.78 MB/h

[15/Dec/2005:13:24:29] PM Waiting for housekeeper to finish

[15/Dec/2005:13:24:30] PM Shutdown index/docs AWord 1252155067

